

年報 10

平成 5 年度

1994. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 10

平成 5 年度

1994. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で12年目を迎えました。この間、当センターが発掘調査を行なってきました遺跡の数は180件を越え、刊行しました報告書も90冊以上となりました。これらの内容は、旧石器時代から近世に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。発掘調査で得られた資料は、遺跡調査発表会や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により、県内では勿論のこと県外にも本県の歴史を理解していただくための啓蒙普及活動も行なって参りました。

本書は、1993年度に当埋蔵文化財センターが行ないました発掘調査及び試掘・分布調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、23遺跡の発掘調査と14事業にかかる試掘調査を行ないました。この中で縄文時代では、早期末の住居址7軒を調査しました中溝遺跡、前期後半から中期初頭の住居址が発見され、彩文土器片が出土した甲ヶ原遺跡があります。また、上の平遺跡では、前期末から中期後半、弥生時代の方形周溝墓等が発見され、特に縄文時代中期初頭の住居址は10軒検出され、多數の土器や獸面把手・大型屈折像土偶、そして全国で10数例ほどの「の」字状石製品などが発見されるなど中期初頭の研究にはかかせないものであります。中谷遺跡では、配石遺構が7基確認され、特に4号遺構では獸骨を多量に含む土坑が確認されるとともに、清水天王山式土器が多量に得られたことなどによって、大きな学術的成果が期待されるものと思われます。扇状地の調査では、甲西バイパス関連事業で地表数mから、弥生・古墳・平安時代・中世・近世の遺跡がみつかっております。中でも大師東丹保遺跡では、これまで甲府盆地では確認されていませんでした富士火山灰の発見があります。また、呪符・人形・斎串等の出土により「まつり」「まじない」が民衆の間に浸透していたことを物語る貴重な資料を提供し、大変興味深い発見となりました。新居道下遺跡では、古墳時代後期の土師器の一括資料を得て、3年間の調査の中で断片的な資料を埋めることができました。今年度で4年目となりました甲府城跡の調査、古代官衙・寺院址詳細分布調査は来年度も継続され、新たな成果を上げていくものと思われます。この他、県内の市町村が実施いたしました発掘調査においても、興味深い遺構や遺物が発見されております。

県内におきましては、ここ数年間100件前後の発掘調査が行なわれております。件数そのものは横ばい状況ですが、大規模開発によって調査面積は大幅に増加しております。このような中で得られました貴重な資料と交換に、遺跡の消滅という大きな代價を余儀なくされております。埋蔵文化財の保護・保存・活用は、本県の教育・文化・歴史に大きなかかわりをもち、これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、なお一層のご協力とご理解をお願いいたします。

1994年3月

山梨県埋蔵文化財センター

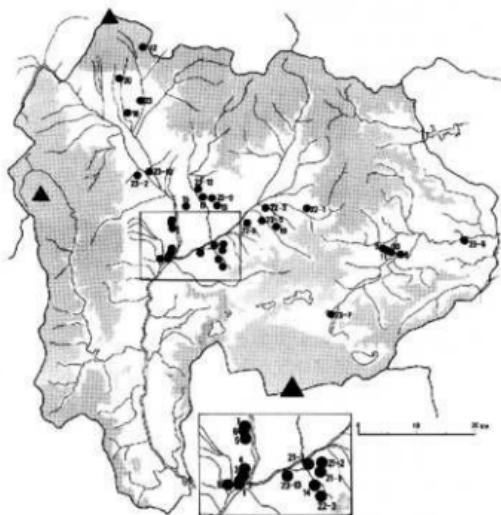
所長 大塚 初重

目 次

I	1993年度の事業概要	
1	発掘調査	1
2	整理事業	1
3	発掘調査報告書	1
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	2
5	遺跡調査発表会	4
6	「山梨の遺跡展」の開催	6
7	課内研究グループ	6
8	市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会	7
9	調査研究課課内研修会	7
II	各遺跡の発掘調査概要	
1	大師東丹保遺跡（I区）	8
2	大師東丹保遺跡（II区）	10
3	油田遺跡	12
4	向河原遺跡	14
5	新居道下遺跡	16
6	村前東A遺跡（I区）	18
7	村前東A遺跡（II区）	20
8	九鬼II遺跡	22
9	中谷遺跡	24
10	中溝遺跡	26
11	揚久保遺跡	28
12	丘の公園第7遺跡	29
13	甲府城跡（県指定史跡）	30
14	米倉山B遺跡	34
15	唐松遺跡	36
16	大明神遺跡	38
17	東河原遺跡	40
18	日影田遺跡	42
19	北中原遺跡	44
20	甲ッ原遺跡	46
21	上の平・東山北遺跡・銚子塚古墳南東部試掘調査	48
22	古代官衙・寺院址詳細分布調査	51
23	八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査	53
III	県内の概況	
1	調査の件数と状況	61
	1993年度発掘調査一覧	63

例 言

- 本書は、1993年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 本書の編集は、山本茂樹、野代幸和、小泉敬が行なった。
- 今年度の発掘調査一覧及び資料の記載は3月末日現在で集計したものである。
- 第II章発掘調査概要の発掘調査面積の()内は調査対象面積である。
- 右記の地図は1993年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は第I章の遺跡地名表に対応している。



1993年度発掘調査 位置図

職 員 組 織

所長	大塚 初重
次長	三科 英訓
総務課課長	三科 英訓
埋蔵文化財指導幹	森 和敏
調査研究課課長	森 和敏

総務課	
副主査	遠藤 晋
主任	佐々木 小百合
主事	久保島 宏
業務員	久保川 一三
業務員	小岩井 畑
業務員	有泉 百合恵

調査研究課	
副主幹・文化財主事	末木 健
主査・文化財主事	小林 広和
主任・文化財主事	中山 誠二
主任・文化財主事	山本 茂樹
文化財主事	佐野 和規
文化財主事	三田村 美彦
文化財主事	村石 真澄
文化財主事	小林 公治
文化財主事	野代 幸和
主査・文化財主事	新津 健
副主査・文化財主事	米田 明訓
主任・文化財主事	高野 政文
文化財主事	松土 一志
文化財主事	小泉 敬
文化財主事	保坂 和博
文化財主事	小林 健二
文化財主事	田口 明子
副主査・文化財主事	八幡 利志夫
主任・文化財主事	橋田 重男
主任・文化財主事	高野 玄明
主任・文化財主事	五味 信吾
文化財主事	村松 利恵子
文化財主事	柏木 秀俊
文化財主事	森原 明廣
文化財主事	石神 孝子
文化財主事	宮里 学

I 1993年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は23遺跡の発掘調査と14事業にかかる試掘調査を行なった。調査の原因は、道路建設14、リニア建設4、建物建設12、公園整備5、学術調査1、農地改良1となる。調査は4月下旬から3月中旬まで行なわれ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要是、第II章で述べることとする。

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	大師東丹保遺跡(Ⅰ区)	14	米倉山B遺跡	23-1	西宮高根南田地試掘調査点(日影田遺跡として本調査)
2	大師東丹保遺跡(Ⅱ区)	15	唐松遺跡	23-2	轟谷町・御影・豊塚新(西幽川バイパス)試掘調査
3	油田遺跡	16	大明神遺跡	23-3	県道内之郷・山形駅(喜多バイパス)試掘調査
4	向河原遺跡	17	寅戸原遺跡	23-4	魚宮一宮地試掘調査(北中原遺跡として本調査)
5	新居道下遺跡	18	日影田遺跡	23-5	風原遺跡(水と森のプロムナード)試掘調査
6	村前東A遺跡(Ⅰ区)	19	北中郷遺跡	23-6	桂川流域下六遺跡試掘調査
7	村前東A遺跡(Ⅱ区)	20	甲ヶ原遺跡	23-7	桂川139号線試掘調査
8	九鬼日遺跡	21-1	上の平遺跡	23-8	国道141号線(芦幡バイパス)試掘調査
9	中谷遺跡	21-2	寅戸北遺跡	23-9	北口楓宮社周辺試掘調査
10	中庸遺跡	21-3	橘子屋古墳南東部試掘調査	23-10	北丘摩合町今合試掘調査
11	久保遺跡	22-1	古代官衙・寺院跡詳細分布調査(大寺寺)	23-11	鳥立若瀬地区大学試掘調査(寅戸原遺跡として本調査)
12	丘の公園第7遺跡	22-2	古代官衙・寺院跡詳細分布調査(平行寺遺跡)	23-12	菅原麻績翁宿合試掘調査
13	甲府城跡(県指定史跡)	22-3	古代官衙・寺院跡詳細分布調査(心絆寺横三遺跡)	23-13	北高古墳群周辺遺跡調査

2. 整理事業

今年度は下記の整理を行なった。

No	遺跡名	発掘年度	事業名	No	遺跡名	発掘年度	事業名
1	大師東丹保遺跡(Ⅰ区)	1993	一般国道52号線(甲西道路)改築	13	中谷遺跡	1993	リニア新実験線建設
2	大師東丹保遺跡(Ⅱ区)	1993	一般国道52号線(甲西道路)改築	14	唐松遺跡	1992~1993	宇津谷ニュータウン建設
3	新居道下遺跡	1991~1993	一般国道52号線(甲西道路)改築	15	東河原遺跡	1993	県立春暮短斯大学建設
4	九鬼日遺跡	1993	リニア新実験線建設	16	甲ヶ原遺跡	1993	一般国道改築工・八ヶ岳公園建設
5	米倉山B遺跡	1991~1993	米倉山ニュータウン整備	17	大明神遺跡	1993	富士市西部広域農道建設
6	甲府城跡(県指定史跡)	1993	南越谷公園整備	18	向河原遺跡	1992~1993	一般国道52号線(甲西道路)改築
7	上の平遺跡 ほか	1993	甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備	19	油田遺跡	1992~1993	一般国道52号線(甲西道路)改築
8	立石・宮の上遺跡・宮の原遺跡	1980~81・83	道路用地埋立作成	20	北堀遺跡	1993	県立春暮短斯大学建設
9	村前東A遺跡(Ⅰ区)	1993	一般国道52号線(甲西道路)改築	21	中庸遺跡	1993	リニア新実験線建設
10	村前東A遺跡(Ⅱ区)	1993	一般国道52号線(甲西道路)改築	22	日影田遺跡	1993	県立高根南田地建設
11	丘の公園第7遺跡	1993	風原遺跡工・八ヶ岳公園整備	23	長久保遺跡	1992~1993	リニア新実験線建設
12	古代官衙・寺院跡詳細分布調査	1993	古代官衙・寺院跡詳細分布調査	24	水口遺跡	1992	一般国道改築・中道線建設

3. 発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No	報告書名	No	報告書名	No	報告書名
第69集	大師東丹保遺跡(概報)	第90集	村前東A遺跡(概報)	第94集	上の平遺跡(第6次調査)東山北遺跡(第4次調査)橘子屋古墳南東部試掘調査
第87集	油田遺跡(概報)	第91集	永口遺跡	第95集	東河原遺跡
第88集	向河原遺跡(概報)	第92集	丘の公園第7遺跡	第96集	甲ヶ原遺跡(第5次)
第99集	新居道下遺跡(概報)	第93集	山形県指定史跡甲府城IV	第97集	天神遺跡

4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

資料掲載一覧

No	申請日	申請物件名	申請者	利用目的
1	5. 11	甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点	埋蔵文化財研究会	「埋文写真研究」Vol.4に掲載
2	5. 12	安道寺遺跡出土有孔鉗付土器1点	ハヌマン	「BAHAN」第17号「南の新」に掲載
3	5. 26	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	シマウマーラブ	昭文社刊「マップ情報館93山梨」に掲載
4	6. 4	東山古墳群航空写真1点	吉川弘文館	「古代を考える東国と大和王権」に掲載
5	6. 30	金生遺跡出土中空土偶1点 金生遺跡出土丸ヶ岡系土器2点 一の沢西遺跡出土深鉢形土器5点 甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点	岩手県立博物館	展示図録「じょうもん発信」に掲載
6	7. 20	安道寺遺跡出土有孔鉗付土器1点 殿林遺跡出土深鉢形土器1点	一ツ橋美術センター	小学館刊「原色日本の美術」第1巻に掲載
7	8. 5	殿林遺跡出土深鉢形土器1点 安道寺遺跡出土有孔鉗付土器1点 一の沢西遺跡出土深鉢形土器1点	講談社	「日本美術全集」に掲載
8	8. 6	金生遺跡出土中空土偶1点	房総風土記の丘	「まつり・と心らい」展ポスターに掲載
9	8. 31	水呑塙北遺跡出土炭化物付繩文土器片	朝日新聞社出版局	「歴史を読みなおす」第1巻に掲載
10	9. 3	上野原遺跡出土深鉢形土器1点	同文書院	「ニッポン原人」の表紙カバーに掲載
11	9. 7	二本柳遺跡蛭町の出土状況写真1点 米倉山遺跡出土賀賀1点 北堀遺跡出土と鏡残欠1点	山梨県考古学協会	「山梨県考古学協会誌」第5号に掲載
12	9. 17	安道寺遺跡出土深鉢形土器1点 〃 有孔鉗付土器1点 〃 猪袋跡深鉢形土器1点 花鳥山遺跡出土深鉢形土器2点	高山県埋蔵文化財センター	「縄文土器の世界」に掲載
13	9. 29	宮の前遺跡発掘調査関係写真7点	大木自治公民館	地域の歴史の小冊子に掲載
14	10. 4	駅遊堂遺跡出土土偶集合写真1点	リプロ	正進社刊「縄文人のくらし」に掲載
15	10. 12	関山遺跡出土深鉢形土器1点	上野原町教育委員会	「上野原町広報」10月号に掲載
16	10. 21	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	平凡社	「日本陶磁の一萬二千年」に掲載
17	10. 24	一の沢西遺跡出土土偶3点 金生遺跡出土中空土偶1点 〃 土偶20点	茨城県立歴史館	展示図録「東国の土偶」に掲載
18	10. 27	駅遊堂遺跡出土土器集合写真1点	雄山閣出版	「季刊考古学」別冊第4号に掲載
19	11. 18	輝藏地遺跡出土石棒2点 〃 丸石2点 〃 枕石1点 金生遺跡出土石棒1点	セゾン美術館	「21世紀・的・日本 - 現代美術と民俗的空间の出会い：日本の眼と空间Ⅲ」に掲載
20	11. 20	金生遺跡祭社遺構出土状況写真1点	読売新聞社出版局	「日本の古代遺跡を掘る」(仮題)に掲載
21	12. 1	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	文藝社	「全国博物館案内」(仮題)に掲載
22	1. 10	安道寺遺跡出土土偶1点	島根県佐田町教育委員会	展示会パンフレットに掲載
23	1. 10	小平沢古墳出土鏡1点 長田口遺跡出土鏡片1点	大阪府立弥生文化博物館	展示図録「富士山を望む弥生の国々」(仮称)に掲載
24	1. 10	重郎原遺跡出土深鉢形土器1点	河北新報社出版部	「縄文にみる東北のこころ」に掲載
25	1. 28	駅遊堂遺跡出土土器集合写真1点	ボブロ社	「くらしの歴史図鑑」に掲載
26	2. 18	中谷遺跡出土汁口土器1点	県学術文化課	「県史たより」に掲載
27	2. 23	天神遺跡出土硬玉製大珠1点	福井県立博物館	展示図録「古代のアクセサリー」に掲載
28	3. 11	殿林遺跡出土深鉢形土器1点	若葉共済会	「公済時報」4月号に掲載

資料貸出一覧

No.	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
1	4. 22~6. 11	銚子塚古墳出土朝顔形埴輪1点 亀甲塚古墳出土盤龍鏡1点 " 管玉1連 四ツ塚7号墳出土須恵器大甕2点 四ツ塚古墳群全景写真パネル1点 考古博物館構内古墳出土直刀2点 " 把頭1点 " 小札類6点 竜王3号墳出土玉類一括 北一の沢3号墳出土大甕2点 稻荷塚古墳出土銀象嵌装飾大刀1式 ニッ塚1号墳出土金環5点	帆遊堂遺跡博物館	「帆遊堂遺跡周辺の古墳」展に展示
2	5. 14~5. 20	上の平遺跡出土深鉢形土器1点 金の尾遺跡出土深形土器1点 姥塚遺跡出土甕・坏2点	玉穂町立三村小学校	社会科学習の教材として
3	9. 7~11. 20	金生遺跡出土中空土偶1点 一の沢西遺跡出土人面付土器1点 村上遺跡出土人面把手1点 上の平遺跡出土人面把手1点 安道寺遺跡出土人面把手2点 一の沢西遺跡出土土偶1点	千葉県立房総風土記の丘	「まつり・とむらい」展に展示
4	9. 10~11. 30	金生遺跡出土亀ヶ岡系土器2点 一の沢西遺跡出土深鉢形土器5点 甲ヶ原遺跡出土深鉢形土器1点	岩手県立博物館	「じょうもん発信展」に展示
5	9. 28~12. 11	天神遺跡出土硬玉製大珠1点 獅子之前遺跡出土水晶原石5点 " 水晶剥片5点	栃木県立博物館	「選ぶ・割る・磨く」展に展示
6	10. 13~12. 11	一の沢西遺跡出土深鉢形土器6点 安道寺遺跡出土大型把手付深鉢形土器1点 " 蛇体文付有孔焼付土器1点 " 猪形把手付土器1点 " 把手付深鉢形土器1点 花鳥山遺跡出土深鉢形土器2点	高山県埋蔵文化財センター	「縄文土器の世界」展に展示
7	1. 25~3. 31	一の沢西遺跡出土土偶3点 金生遺跡出土中空土偶1点 " 土偶20点	茨城県立歴史館	「東国の土偶」展に展示
8	1. 4~4. 11	郷藤地遺跡出土石棒2点 " 丸石2点 " 枕石1点 金生遺跡出土石棒1点	セゾン美術館	「21世紀・的・日本」展に展示
9	1. 26~4. 20	安道寺遺跡出土土偶4点 柳坪遺跡出土土偶1点 上の平遺跡出土土偶1点	島根県佐田町教育委員会	「鬼むかし(その2)」展に展示

5. 遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された遺跡調査の内容を一般県民に広く周知する為、山梨県考古学協会と共に年2回の遺跡調査発表会を実施している。また、発表に加え出土遺物や写真等の展示により、発表遺跡以外の紹介も行った。以下、その概要を述べていきたい。

◎1993年度上半期遺跡調査発表会概要（10月9日 於山梨学院大学約160名参加）

1. 下神取遺跡 明野村下神取字神取〔明野村教育委員会：佐野隆〕

縄文時代草創期の石器群と共に微隆起線文土器や爪形文土器の破片が出土し、尖頭器製作も行った居留地と考えられる。また、古墳時代～平安時代の住居跡や中世の井戸と思われる遺構などを確認した。

2. 鏡物師屋遺跡 楠形町下市之瀬字木〔楠形町教育委員会：清水博〕

縄文・平安時代の複合遺跡である。縄文時代中期の集落跡から円錐形の土偶や人体紋様付きの土器、動物土偶等が、平安時代の住居跡からは墨書き土器が多数出土している。

3. 上ノ原遺跡 須玉町江草1724外〔帝京大学山梨文化財研究所：平野修・櫛原功一〕

縄文時代中・後期、弥生時代中・後期、平安時代の複合遺跡である。特に縄文時代後期掘之内式期の集落としては全国的に見ても最大級の規模である。住居跡は約100軒を数え、敷石のあるものや柱穴底面に礎石をもつもの、掘立柱を有するものなどがある。

4. 梶田遺跡 甲府市千塚5丁目9番地内〔県埋蔵文化財センター：高野玄明〕

古墳時代前・後期、奈良時代初頭、平安時代末の複合遺跡である。甲府市域で2例目の、古墳時代前期築造と思われる方形周溝墓4基からは、それぞれ祭祀に関わる土器が良好な遺存状況で出土している。

5. 上町本陣遺跡 勝沼町勝沼字上町〔勝沼町教育委員会：室伏徹〕

旧甲州街道勝沼宿の中に拡がる、江戸から大正期の都市型遺跡である。また、南側に位置する国指定史跡「勝沼氏館跡」と同時期の遺構が見られ、その関連が注目される。

◎1993年度下半期遺跡調査発表会概要（3月13日 於県国際交流センター 約120名参加）

報告 平成5年度の埋蔵文化財の保護と調査〔県教育庁学術文化課：小野正文〕

1. 黒平遺跡群 甲府市黒平町上黒平〔山梨学院大学考古学研究会：十駿駿武〕

旧石器時代、縄文時代早期・中期の遺跡群である。水晶石器加工集落の一連の調査であり、宮ノ前遺跡・道上遺跡・湯平遺跡・原遺跡・判平遺跡からなる。

2. 中谷遺跡 都留市小形山瀬木2335-1外〔県埋蔵文化財センター：吉岡弘樹〕24頁参照

3. 健康村遺跡 長坂町大字中丸字新代1622外〔新宿区区民健康村遺跡調査団：板倉歓之〕

1992年7月～11月に調査され、縄文時代中期および平安時代の住居跡が発見された。

4. 大師東丹保遺跡 甲西町大師字東丹保175外〔県埋蔵文化財センター：小林健二〕8頁参照

5. 谷戸氏館跡 大泉村谷戸1107外〔大泉村教育委員会：伊藤公明〕

縄文、平安、中世から近世にかけての複合遺跡である。特に中世の用水路1条、土壘を伴ったと思われる空堀状遺構2条、地下式壙18基などの遺構から、谷戸城との関係、「谷戸の御陣所」の存在など、当時を考える上で重要な課題を再認識させられた。

下半期の発表会において、参加者の意見を聞き今後の参考とするために、アンケート調査を実施した。その結果についてごく簡単に述べておく。回収されたアンケートは53枚である。当日参加者の内、数十名は当センターや市町村埋蔵文化財担当者であることから、一般参加者の内半数以上の人から回答が得られたことが推測可能であろう。

性別は男性が60%弱を占め女性よりやや多いが、極端な偏りは見られない。年齢層は40代以上が74%を占めており、若年層の参加がかなり少ないので特徴である。職業は様々であるが、32%が発掘関係となっており、現場作業員等、何らかの形で直接考古学に関わっている人達の比率が高いことがわかる。住所はほとんど県内からであったが、その中でも甲府市内および中巨摩郡がそれぞれ30%前後を占めていた。前者は会場への地の利が良く、後者はそれに加え当センターが行っている甲西バイパスの大規模発掘調査が集中しているためであろう。

本発表会の存在について80%以上的人が知っていたが、40%強の人は初参加である。一方、その要項については、半数の人がチラシ、もしくは職員などにニュースソースを得ており、ラジオなどによる放送の効果は予想外に少なかった。

会全体の内容については、90%以上の人人が「おもしろかった」という評価を下しており、発表・展示・要旨を個別に見ても60%前後の人たちが積極的に肯定している。しかしその一方で、「発表内容や印刷された要旨に使われている専門用語をよりわかりやすい言葉に置き換えてほしい」、「挿図をもっと大きくして見やすくしてほしい」といった意見も寄せられ、今後の改善点が指摘されている。

会場については「狭かった」とする人もいたが、2／3前後の人人はほぼ適当であったとする。会場への交通手段は、自家用車以外の公共交通機関や自動車・歩徒で来場した人が1／3ほどおり、交通が至便であったことを裏付けている。交通の便の良さは不特定多数の人が参加するには必須の条件であり、このことが参加者の多少を左右する重要な要素の一つであることが推定される。

今後の本発表会への参加希望については、半数の人が「是非来たい」、40%強の人が「機会があれば来たい」と回答しており、予想以上の参加意欲を感じられた。

以上、調査結果をまとめると、全体に今回の発表会には初参加の人が多かったものの、職業や開催を知るに至った媒体から、発掘等を通じて常日頃から考古学に関心の高い人が多かったことが推測される。今回の発表会については全体的に高い評価が得られているが、今後ともアンケート調査に寄せられた問題点を改善し、遺跡の内容をより深く、より多くの県民に知ってもらうことで、遺跡発掘や文化財に対する理解を深めていきたい。

6. 「山梨の遺跡展」の開催

例年、県立考古博物館との共催事業として年度末に実施している。年度内に行なわれた発掘調査の成果について、速報的に展示公開するもので、この公開を通じ、地下に埋もれていた山梨の歴史の一端を多くの県民に紹介するとともに、埋蔵文化財センターの事業への理解を高めていくことをねらいとしている。

展示は、考古博物館特別展示室を会場に、遺跡ごとにその出土品や調査状況の写真などで構成されている。今年度は、1993年3月26日（土）から4月10日（日）までの会期で、上の平遺跡（第6次）、中溝遺跡、唐松遺跡、日影田遺跡、中谷遺跡、大師東丹保遺跡、村前東A遺跡、新居道下遺跡、九鬼II遺跡、北中原遺跡の10遺跡の遺物・写真展示と東河原遺跡、大塚古墳の写真展示で構成されている。

今年度の主な展示遺物は「の」字状垂飾・屈折像土偶・獸面把手（上の平遺跡）、玦状耳飾（中溝遺跡）、石斧・土偶（唐松遺跡）、キセル・六文銭（日影田遺跡）、環状耳飾り・注口土器（中谷遺跡）、生活および祭祀用木製品・柱痕（大師東丹保遺跡）、芋引金・刻書土器（村前東A遺跡）、杯形土器（新居道下遺跡）、硯・灰釉陶器・綠釉陶器（九鬼II遺跡）、転用硯・石鎌・ミニチュア土器（北中原遺跡）、墨書き土器（村前東A遺跡・九鬼II遺跡、北中原遺跡）などであり、写真展示では弥生時代の水田（東河原遺跡・大師東丹保遺跡）、鈴劍・太刀（大塚古墳）などが紹介されている。

7. 課内研究グループ

今年度は、当埋蔵文化財センターにおいて研究グループを設けることとなり、旧石器・縄文時代を1部会、弥生・古墳時代を1部会、古代部会、中・近世部会の4グループである。各部会の今年度の活動は、まず旧石器・縄文時代の研究部会では、山梨県内で出土した縄文土器を、各時期ごとに集成し、図版を作成する作業を行なった。次に弥生・古墳研究部会では、個人の発表の中で部会の研究テーマの方向性を見いだすことに努め、進められている。古代部会では、小テーマについて文献史学・考古学の両面から研究し、古代甲斐国社会復元を研究のテーマとして行なわれている。中・近世部会では、県内の中世陶磁器（カワラケ）の編年を目標におき、県内の資料の収集及び研究が進められている。

今年度初めて発足された研究グループは、発掘調査を行っている中で月に約1回の開催で行なわれた。来年度は、さらに良い方向で研究部会が活動され、それぞれの目標を達成させたいと考えている。

なお、教員出身者については、当埋蔵文化財センター内において教職員の研究会が1991年度より行われ、発掘調査および考古資料について勉強会が開かれている。これまでの研究成果をまとめた「先生のための 考古資料集」が2冊作られている。これは、考古資料を学校教育の中で有効に活用していく、教材化を図ることを目的に作成された資料集である。現在もなお活動は続けられ、さらに研究が進められている。

8. 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

日 時 1994年 2月23日
場 所 考古博物館講堂
研修テーマ 発掘担当者のための地形環境分析入門

今年度の市町村埋蔵文化財発掘担当者研修は、立命館大学文学部の高橋学助教授を招き上記のテーマで行なった。市町村の担当者や当センター職員など、県内で実際に発掘を担当する調査担当者約60名が参加し、盛況であった。研修では空中写真からの埋没地形の読み取りや、それにもとづいた遺跡の立地し易い場所の選定など、調査前段階で未確認の遺跡の予測が可能であることを示され、今後の遺跡分布調査や開発サイドとの調整等に極めて有効であることが確認された。また、現場での土層断面観察で注意すべき点や工事図面等からの埋没地形の復元の方法など、現場の担当者がどのように地形を読み、それを発掘調査に生かすか、といった具体的な方法や理論の講義を受けることができ、非常に有意義な研修であった。

9. 調査研究課課内研修会

当センターでは隔月に一回程度の割合で「調査研究課課内研修会」を開催している。これは発掘調査に携わる職員が、様々な知識を得る機会を設けることを主目的にしている。そのため内容は多岐に渡り、発掘調査の方法や事務的な取扱法などから各種外部研修の成果発表にまで及んでいる。本年度の実施内容は下記のとおりである。

	開催日	講演・発表内容および講演・発表者	備考
1	1993. 4. 28	「文化財調査における写真測量について」 森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）	「シンポジウム文化財と写真測量」（同実行委員会、1993. 4、東京）の参加報告
2	1993. 5. 31	「発掘調査と労働安全衛生について」 内田 靖氏（山梨労働基準局）	発掘調査をめぐる労働安全衛生の基準と留意点についての講演
3	1993. 6. 30	「考古学に関する地質学的用語について」 河西 学氏（帝京大学山梨文化財研究所）	考古学と関連性の深い地質学用語（岩石鉱物、火山灰等）についての講演
4	1993. 7. 30	「発掘調査へのコンピュータ導入の現状と課題」 高井 茂氏（システム提案株式会社）	発掘調査におけるコンピュータ活用の実例と課題についての講演
5	1993. 9. 30	「アメリカ・インディアンの文化と歴史」 今福利恵（山梨県埋蔵文化財センター）	「北米の民族考古学的研究調査」（國學院大學、1993. 8、アメリカ）の参加報告
6	1994. 2. 28	「遺跡における人骨調査の方法と課題」 田口明子（山梨県埋蔵文化財センター）	「発掘技術者研修：人骨調査課程」（奈良国立文化財研究所、1994. 2）の参加報告
7	1994. 2. 28	「バハレーンにおける紀元前3～2千年紀の遺跡調査」 中山誠二（山梨県埋蔵文化財センター）	文部省科学研究「海外学術調査研究」（1994. 1～2、バハレーン）の参加報告

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 大師東丹保遺跡（I区）

所在地 中巨摩郡甲西町大師字東丹保210外
事業名 一般国道52号線（甲西道路）改築
調査期間 1993年5月6日～12月24日
調査面積 4,400m²
担当者 新津 健、田口明子

西に梯形山を仰ぎみる甲府盆地の西南部。そこを南北に走る国道52号のバイパス建設に伴い発掘調査が行われている。（位置図）この内、本遺跡は梯形山系に源がある流沢川と坪川に東西を狭まれた氾濫原に位置し、標高約245mを測る。

遺跡全体は南北40m以上拡がると思われ、南からI～IV区に区分されるが、今回の調査はその南端のI区及びそれに続くII区を対象とした。（II区の図参照）

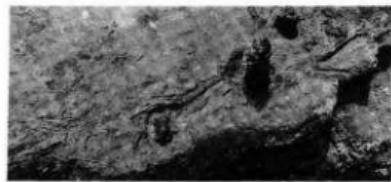
I区は幅約40m、長さ約110mである。約100m南に宮沢中村遺跡がある。周囲には水田が多く営まれ、桑畠や果樹が点在する。調査の結果、3面に亘る生活面が検出された。

まず、鎌倉から室町時代と思われる第1面には、水田跡、溝、杭列等がある。水田跡は、氾濫により残りが良くないが6面以上が確認されている。区画は約15×15mの大きいものである。水田跡の東側には旧河川がある。西側は一段高くなっている。この面と水田跡との境には3条の杭列が南北の鞋群にはば並行する。杭に小枝を絡ませている箇所も見られた。この西側の高い面には、溝2条が、南北の杭列と並んでいる。また、土坑1基、柱根4基も西端に発見されたが、これらは出土土器から、水田跡、杭列よりも若干新しい戦国期のものと考えられる。この第1面からの遺物は土器、陶磁器、木製品、動・植物遺存体等である。第2面は現地表下約1mにあり、弥生時代後期末に位置付けられる。ここからは4面程の水田跡と溝2条が確認できた。水田跡は5×5m程の小区画のものである。この面で、地震による液状化の跡と見られる砂脈、地割れが数ヶ所発見された。県内での報告例は少なく、今後の調査に期待される。遺物は弥生土器、植物遺存体等である。

第3面は、現地表下約4mである。水田面は確認できず、3条の溝が南西に向かっている。これらの溝は調査区の中間辺りで合流する。合流地点より南の1号溝底に、建築用と思われる木材や木製品が集中している箇所がある。また、調査区南西隅では長さ3m前後の材が発見された。これらも建築用材と思われる。第3面直上では、富士山が供給源であろう火山灰がほぼ全面に認められる。甲府盆地では、これまで富士火山灰は確認されておらず、今後の分析結果が期待される。遺物は、弥生土器、木製品、動・植物遺存体等である。



甲西道路の遺跡位置図



1. 1面 3号杭列



2. 1面 1号杭列



3. 1面 3号杭列と溝



4. 1面 3号杭列断面



5. 2面 水田跡



6. 2面 地割れ



7. 3面 1号溝



8. 3面 木製品（建築用材）

2. 大師東丹保遺跡（II区）

所在 地 中巨摩郡甲西町大師字東丹保
175外
事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）
改築
調査期間 1993年4月12日～12月27日
調査面積 4,950m²
担 当 者 小林健二、小泉 敬



大師東丹保遺跡 II区位置図

I区の北側に隣接するII区では2層の文化層の調査を行った。I区同様第1層目が鎌倉

時代中期、第2層目が弥生時代後期である。しかし第2層目は堆積が薄く不安定で残りは悪く、土器片・流木が発見されたが遺構は確認できなかった。

第1層目は第2層目に比べ、平均60cmと非常に安定した堆積をみせる。また調査区北東部分が微高地になっており、南に向かって緩やかに傾斜している。遺構はこの微高地を中心に展開しており、南北に蛇行しながら流れる溝を中心に27条の溝が検出された。一部には杭で補強されていたり、矢板が打ち込まれている所がある。これら大小の溝は不整形の区画を造っており、周辺には土壤1基、ピット8基、調査区中央部と南端に性格不明の畝状遺構2か所が存在している。さらに微高地部分は包含層にもなっており、掘り下げた結果掘立柱建物跡が4棟発見された。それぞれの規模は把握できないが柱根が残存しており、遺存状態の良さがわかる。これらの建物跡は大規模な洪水により倒壊したものとみられ、その後徐々に第1層目が堆積したものと考えられる。調査区中央部では木枠をもつ方形の井戸跡が1基発見されている。洪水により上部が削られており、第2層目の段階で下部がわずかに確認できたものである。

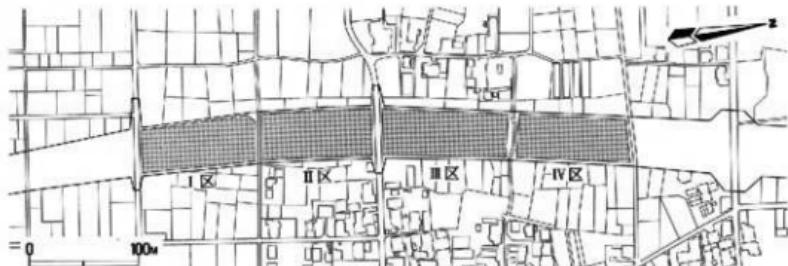
遺構は微高地部分からの出土が大半を占め、日常の生活用具から祭祀に関わるもの、建物の部材まで、その数は8000点を越える。中でも木製品が圧倒的に多い。祭祀に使われたものとして呪符・人形・斎串・陽物がある。斎串は溝で区画された遺構の中に何本かまとめて刺さっていたものもある。唯一の文字資料である呪符は、陰陽道の五芒星を記したものであるが、疫病除けの「蘇民将来札」かどうか現段階では判断はできない。しかし呪術的な性格をもつこの遺物は、「まつり」、「まじない」が民衆の間に深く浸透していたことを物語る貴重な発見といえる。手鏡形をした木製品は祭祀に使われたかどうかはわからないが、興味深いものである。北宋銭を中心とした銅銭は116枚を数える。そのうち28枚はピットに一括して埋納されたとみられるもので、他は包含層中に散在して出土した。その中には貨泉・後漢五銖・四銖半兩もある。さらに獸骨、桃の種・刃の集中地点も発見されている。

生活用具では下駄、草履状木製品、曲げ物などが目立つ。また漆製品（椀・皿・蓋・盆）、鉄製品（刀子・鎌・鎌・蓋）、中国製磁器（青磁・白磁）も多数出土している。この他、石製

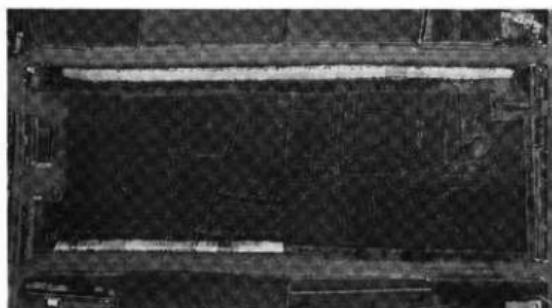
品（砥石・硯）、骨角製品（笄）など、遺物は多岐にわたるが、かわらけ・鍋といった土器については意外にも点数は少ない。

大型の板材・柱材の中で特筆すべきものとして網代垣がある。洪水による土砂で押し流された状態で出土し、縦149cm×横93cmで、幅7cm、厚さ0.3cmの薄板を編み込んである。

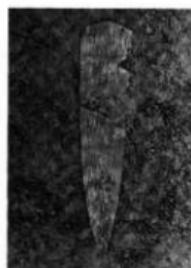
これらの遺構・遺物から、当地区は該期における「水辺の祭祀遺構」であり、溝で区画された遺構には、祭祀においてのそれぞれの「役割」のようなものが存在したのかもしれない。そして掘立柱建物跡も祭祀に関連する施設であったことを窺わせる。それは絵巻物に描かれているような、当時の民衆の生活や「まつり」や「まじない」の風景を彷彿させるものである。



調査区域図



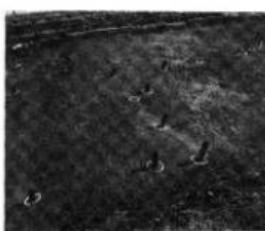
第1層全景



呪符



網代垣検出状況



掘立柱建物跡



手鏡形木製品

3. 油田遺跡

所在 地 中巨摩郡甲西町田島字油田
148-1外

事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）
改築

調査期間 1993年5月11日～12月17日

調査面積 I区：6,000m²
III区：3,000m²

担 当 者 保坂和博、松土一志



油田遺跡 位置図

油田遺跡は、一般国道52号（甲西道路）改

築にともない、昨年度よりI～IVと設定された発掘区内の調査を進めている遺跡である。甲府盆地西部を急激に富士川に向かって下る滝沢川によって形成された小扇状地扇端部の標高259mにあり、北に向河原遺跡、南に中川田遺跡と接する位置にある。

昨年度調査されたII区およびIV区では、II区において古墳時代後期に比定される土器集中区が検出されている。またIV区からは弥生時代前期後葉から中期初頭と考えられる条痕文系の壺形土器などが出土しており、本遺跡の一端が明らかにされている（当センター『年報9』参照）。

本年度の調査はI区およびIII区において実施された。低湿地調査特有の排水対策としては、昨年と同様に調査地の周囲にシートパイルを打ち込み、内側には法面の崩落防止のために、約45°の勾配を付けた排水路を設定し、釜場をコーナー部分の要所に設け集水効果を高め、ポンプによる排水を常時行った。

I区では3面の文化層が確認されたが、いずれの文化層においても調査区北部が氾濫による疊層の堆積により削平を受けている。第1面は、表土下約1.4mより検出され、調査区中央部に舌状台地の先端部が位置する形状を呈し、この台地部はさらに南に標高を高めつつ展開している。また、氾濫による疊層の堆積により遺構面は激しく削られている。遺構としては溝状遺構が1条、水路にともなうと考えられる杭列2条が検出されている。遺物は弥生時代中期～古墳時代後期にあたる土器片が氾濫による疊層に混じって出土している。第2・3面は、ともに南北に継続する流路により、東西に分離された形で遺構面が存在している。この流路に流れ込んでいる砂疊層中に多量の弥生時代中期を主体とする土器群が検出され、木製の堅杵および磨製石鎌・打製大型石斧などが伴出している。第2面では遺構は検出されていないが、地震の影響によると考えられる亀裂および断層が確認されている。遺物は土器集中区が1箇所検出され、弥生時代中期の土器群が出土している。第3面は、第2面より5cmほどのシルト層を挟んで下層にあたり、比較的安定した堆積を成しているが遺構および遺物は検出されていない。なお、第1面と第2面の間には遺物包含層が確認され、弥生時代中期の土器片、黒曜石製の石鎌および剥片・チップ類が検出されている。時期については第1面は弥生時代後期以降、第2面は弥

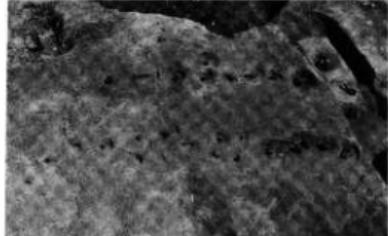
生時代中期、第3面は弥生時代中期以前に比定される。

Ⅲ区は3面の文化層が確認されている。第1面は、水田址が検出されたが調査区西側が氾濫による疊層の堆積により削平を受けていたため全容は把握できない。遺物は平安時代の土師器片等が検出されている。第2面は、調査区南西部が旧河川による削平を一部受けているが比較的安定した堆積状況を見せており、遺構としては集石およびピット群を伴う祭祀跡と考えられる地点1箇所、土坑1基、溝状遺構4条などが検出されている。祭祀跡からは獸の歯および古墳時代後期の土師器・須恵器片がまとめて出土している。遺物についてはこの祭祀跡以外の数地点からも比較的まとまって獸の骨類が確認されている。第3面は第2面より50cm程の疊層を挟んで下層にあたり、堆積状況は安定しており、遺構としては溝状遺構が1条検出されているが、遺物は検出されていない。各文化層の時期については第1面は平安時代以降、第2面は古墳時代後期、第3面は時期不明である。

以上、本年度調査された油田遺跡Ⅰ区およびⅢ区の概要であるが、現在整理途中のため今後遺物整理等を行っていく上で各文化層の年代がより明確にされると思われる。



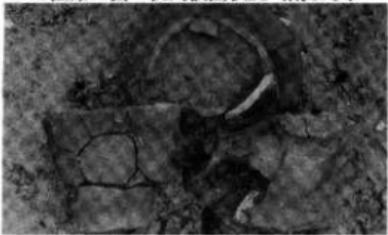
Ⅰ区第1面 完掘状況（北より）



Ⅰ区第1面 杭列検出状況（南より）



Ⅲ区第1面 水田址（南東より）



Ⅰ区 旧河川遺物出土状況



Ⅲ区第2面 祭祀跡



Ⅰ区 旧河川遺物出土状況

4. 向河原遺跡

所 在 地 中巨摩郡甲西町江原
事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）改築
調査期間 1993年4月14日～8月31日
調査面積 3,000m²
担 当 者 米田明訓、高野政文

向河原遺跡は、甲府盆地西部を流れる御勅使川と滝沢川がつくる扇状地の扇端およびその氾濫原に位置し、標高は約260mを測る。

甲西道路の建設に伴い平成4年度から調査が開始され、今年度で2年次となる。昨年度は遺跡南半分（1区）の調査を実施したが本年度は北半分（2区）の調査を行った。

遺跡は地下水の流出が予想されたため、周囲をシートパイルで囲い、その内側に排水用の水路をつくった。しかし遺跡周辺の水田に水を張る頃は、時として遺構面が水没するほどの出水をみた。2区では先に実施された試掘調査によって既に確認されている杭列を伴う層位を含め二つの層について調査を行った。

第1層目では現在の地表から1m前後の深さの疊層下のシルト層上に造られた水田跡が確認された。この水田跡は1枚の田の面積が20m×15mほどのかなり大きな区画で、しっかりした畦畔で周囲を囲まれている。水田跡の中には溝・窪地などが掘られているものもある。およそ方形を呈する水田跡は、その隅に水口が見られ畦畔が切れている。この第1層目の時代については、甲西町役場に残る明治20年に作成された水田の図面との比較、またそれらの田の構造や規模、そして出土したわずかな陶磁器片などから推測して、江戸時代末期のものではないかと考えられる。

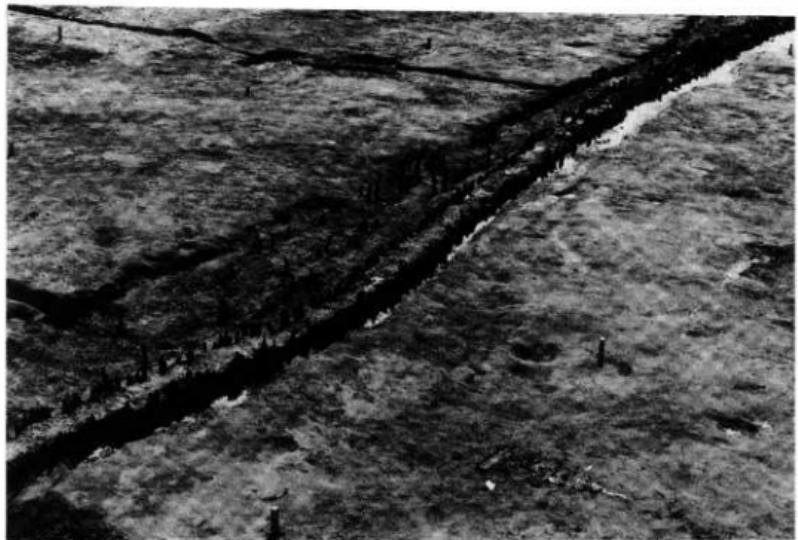
第2層目は第1層目から70cmほど下の砂層の上面で確認できた。ここでは両側を杭列で狭まれた水路跡が検出できた。この水路跡は調査区域のはば中央を西から東に走り、幅は杭もいれて約40cm程である。この杭列のすぐ南に並行して古い時期の廃棄されたと考えられる杭列を伴う水路跡が確認できた。これらの杭列は幅2m前後、深さ10cmほどの浅い溝の中に造られている。この溝の南側に接して3本の溝が並行して掘られている。これらの溝は地面の起伏に沿って掘られていることから、水路として使用されていたというより、地境を示したものかもしれない。また杭列を伴う水路跡は、その手間のかかった造られ方からみて上水道などに使用されていたものかもしれない。杭列の間からは漆塗りの椀の底部が、砂層の上面からは漆塗りの小皿が出土しており、いずれも鎌倉時代末期から室町時代初頭の頃の所産と考えられ、第2層の時期決定に有力な資料となるであろう。



向河原遺跡 位置図



第1層水田跡



第2層水田跡

5. 新居道下遺跡

所 在 地 中巨摩郡若草町十日市場
事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）
改築
調査期間 1993年9月1日～12月27日
調査面積 6,600m²
担 当 者 米田明訓、高野政文



新居道下遺跡 位置図

新居道下遺跡は、甲府盆地西部を流れる御嶽使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高は約270mを測る。遺跡は扇端部に形成された北西から南東方向へのびる微高地に展開する。本遺跡は甲西道路の建設に伴って平成3年度から調査が開始され、今年度で3年次となる。遺跡の調査を進めるにあたり県道韭崎・柳形・豊富線と、そこから北へ200mのところを東西に走る町道との間を1区、その町道から北側の部分を2区とした。平成3年度には1区の大部分と2区の南半分を、平成4年度には2区の北半分の第1層目（平安時代の包含層及び集落跡）をそして本年度は1区の未調査部分と2区の北半分の第2層目以下（古墳時代以前の包含層及び集落跡）を調査した。

遺構確認面が年々深くなつたため今年度は地下水が出水し、調査の進行に多大な影響を与えた。そのためやむを得ず調査区域の周間に排水用の溝を掘ることにしたが、それにより更に下層の弥生時代の遺物包含層の存在が明らかになった。今年度に確認できた遺構は、弥生時代後期の溝状遺構2・古墳時代後期の住居跡3・奈良時代の住居跡1・その他掘立柱建物跡2・土坑4がある。

今年度の調査における最大の成果は、過去2年間の調査では断片的な資料しか獲得できなかつた古墳時代後期の土師器の一括資料を得ることができた点がある。峡西地域では極めて貴重な例となるものであろう。更にもう1点成果をあげるとすれば、弥生時代後期の包含層を確認できたことである。本遺跡の北200mに位置する村前東遺跡でもそれらに近い時代の遺物が多く出土しており、今後の両遺跡の資料の検討により、この地域の当該期の類例が明らかにされるものと確信する。

本遺跡における3年間にわたる調査で発見された遺構の総計は、古墳時代から平安時代の住居跡48・その他掘立柱建物跡6・土坑153・溝状遺構17となる。扇状地に立地する遺跡で土層の堆積も安定せず遺構確認面の検出自体も極めて困難であったが、古墳時代から奈良時代・平安時代にまたがる大規模な集落遺跡の存在が峡西地域で初めて明らかになったわけであり、今後の整理作業により更に多くの成果が出ることが期待される。



45号住居跡



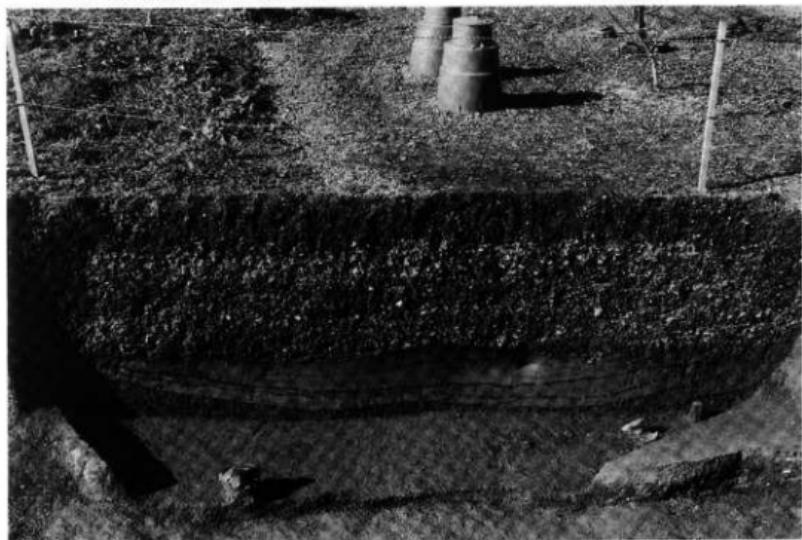
45号住居跡遺物出土状態(1)



45号住居跡遺物出土状態(2)



46号住居跡



砂利に覆われた47号住居跡

6. 村前東A遺跡（I区）

所在 地 中巨摩郡梅形町十五所字村前東
297外
事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）
改築
調査期間 1993年4月12日～12月27日
調査面積 4,050m²
担 当 者 中山誠二、小林公治



村前東A遺跡 位置図

本遺跡は、甲府盆地西部の山中から東流する御動使川が形成した扇状地の扇端部分にあたり、標高は約280m付近に立地している。調査は東西に走る町道を境に南側をI区、北側をII区として行なわれた。

I区は、1面（平安時代面）と2面（古墳時代前期面）の大きく2層に分層されるが、現地表面から1面にかけて、また1面と2面の間層、さらに2面以下のいずれも主に砂層・礫層が厚く堆積し、御動使川といった河川などから幾度ともなく流出した多量の土石流の堆積によって形成された地形であることが明らかである。こうした地形環境の中で形成された土壤層は極めて薄いが、1・2面共にそうした比較的安定していたと考えられる時期に人為的な痕跡が残されている。以下、各面の内容を簡潔に述べる。

1面の平安時代面では竪穴住居址12軒の他、溝数条、畠状遺構2ヶ所などが検出された。竪穴住居址は調査区の南半に偏る傾向がうかがわれる。その大きさは一辺の長さが4m×4m前後であり、平面プランは方形もしくはややいびつな方形である。また、各住居とともに各辺の方向がおむね東西南北の方向に描っているように見受けられる。さらにカマドは確認できる限りでは東寄りの壁に付設されており、平面プランと併せみると、住居址群は比較的向きを揃えて建てられたと考えられる。畠状遺構としているものは、幅20～30cm、確認面からの深さ10cmほどの溝が平行に数本走っている遺構で、住居址群よりも北寄りで散発的に確認されている。

2面の古墳時代前期面は1面の下約1mにある。調査区内ほぼ全域から遺構は出土するものの、検出されたのは焼土址11ヶ所、ピット群および溝の他、自然の小谷のみであり、遺構の種類や数は極めて限られているのが特徴である。住居址等は確認されなかった。焼土址は、長径約20～40cmほどの範囲が熱を受け焼土化しているもので、形態的には地床炉に類似するが、床面や柱穴など住居を構成する諸構造物が一切確認されなかったことから、焚火などによって形成された屋外施設と推測されるものである。本地區ではこれらが単独に存在するのではなく、いくつかまとまって群在する傾向がうかがわれる。また、谷部では全域から土器が多量に出土しているが、特に一部からは完形もしくはそれに近い状態に復元可能な壺や甕、高杯、器台など多様な器種がまとめて廃棄されたような状態で出土している。

遺物については現在整理途上であるが、平安時代では壺および甕を中心とした土器類、若干の鉄製品、カマド内土壤より水洗選別された炭化種子などがある。土器類の全体量はさほど多くないが、その内訳を見ると、ほとんどを在地産の土師器が占め、ごく少量の内黒土器や須恵器・灰釉陶器が伴っている。また、壺類には「九」などの文字が墨書きされているものもある。

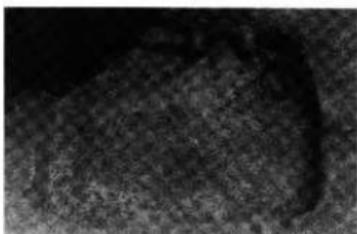
古墳時代前期では、確認遺構も少なく、しかも住居址などが検出されていないにも関わらず、出土遺物はかなりの量にのぼる。これらは特定の器種に偏る傾向は見られず、また東海系や北陸系など他系統の土器も混在している。



I 区 平安時代面全景



平安時代住居址群



第5号住居址



島状遺構



古墳時代面谷部



谷部遺物出土状況

7. 村前東A遺跡（II区）

所在 地 中巨摩郡梅形町十五所字村前東
297外
事 業 名 一般国道52号線（甲西道路）
改築
調査期間 1993年4月12日～12月27日
調査面積 4,350m²
担 当 者 三田村美彦、佐野和規

本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地
扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地

している。調査は東西に走る町道を境に南側をI区、北側をII区として行なわれた。II区では、調査区南側で中世以降（1面）・平安時代（2面）・弥生時代（3面）の3枚の文化層が層位的に確認されているが、北側ではほとんど間層を挟まず各時代の遺構が確認されている。また、調査区の北側一部と中央の広い範囲で、砂利層の堆積が面的に捉えられた。これらの現象はいずれも御勅使川の氾濫が原因と考えられ、本遺跡の堆積の複雑さを物語っている。

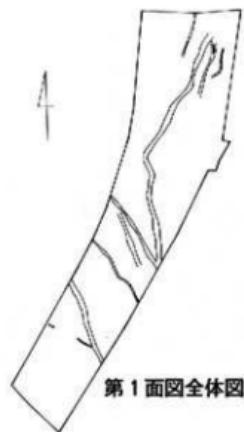
1面では溝状遺構が確認されている。このうち、掘り方のしっかりした大型の溝状遺構の覆土には砂利や砂が堆積しており、上記した御勅使川氾濫の影響を想起させる。溝状遺構からは弥生時代から近世に至る土器・土師器・陶磁器の破片等が確かに出土しているのみで時期を明確にできない。現段階では調査区南側で確認された層序に基き、中世以降という大枠でその時期を捉えておきたい。

2面では平安時代の住居址9軒の他、溝状遺構・土坑等が検出された。住居址は調査区全域に散在するように分布しているが、2棟が近接して構築されるものがある。プランはいずれも方形を呈し、竈は東壁の中央より多少南北に偏在して構築されている。調査区南側で確認された溝状遺構は、近接して構築された住居址とほぼ軸を合わせて東西・南北に直行するように検出されている。同じく調査区南側で確認された土坑には、その配列から柵列と思われるものが認められ、前述した溝状遺構も含め住居址との関連が注目される。

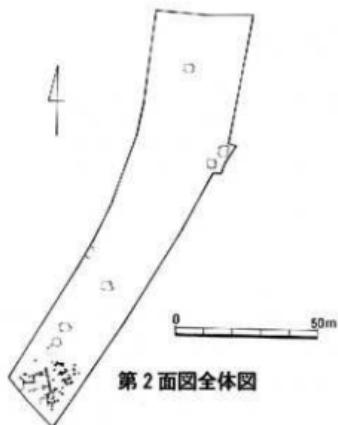
3面では弥生時代後期の住居址5軒の他、土坑等が検出された。遺構は調査区の北南両端で検出され、中央付近は空白となる。調査区北側では、住居址1軒と土坑が検出されている。住居址は、7m×6mの小判形を呈す大型のもので火災を受けており、壺や甌などの土器と共に多量の炭化物・炭化材が出土した。炭化物・炭化材は住居址の中心に向かって放射状に出土する傾向がある。調査区南側では、4軒の住居址と土坑が検出されている。住居址は覆土と地山の色調が極めて近似しており、プラン確認が難航した。炉址・周溝・柱穴等が確認された段階で、プランを推定復元したものもあり、不明瞭な点が多い。



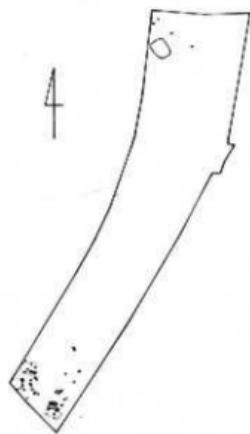
村前東A遺跡 位置図



第1面図全体図



第2面図全体図



第3面全体図



第3面火災住居址 平面図

8. 九鬼II遺跡

所在地 都留市井倉字九鬼172-1・173外
事業名 リニア新実験線建設
調査期間 1993年5月17日～12月24日
調査面積 6,830m²
担当者 高野玄明、橋田重男

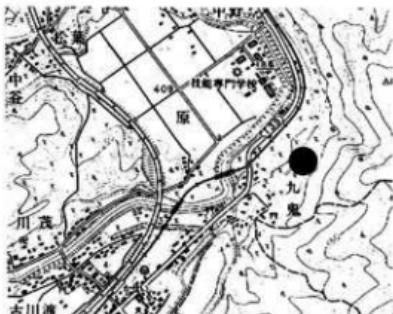
九鬼山の北西面、山裾沖積地の緩傾斜面に位置する九鬼II遺跡は、標高約416mに立地し、遺跡の北側は東電水路により切られている。本遺跡の西側には、小沢を隔てて九鬼I

遺跡が存在する。本遺跡は、調査に先立ち、試掘による範囲確認調査を行った。その結果、黒色土上面に平安時代の遺構・遺物、その下のローム層上面には縄文時代前期末～後期の遺構・遺物が検出された。今回の調査では、試掘調査によって確認された部分について全面調査を行った。

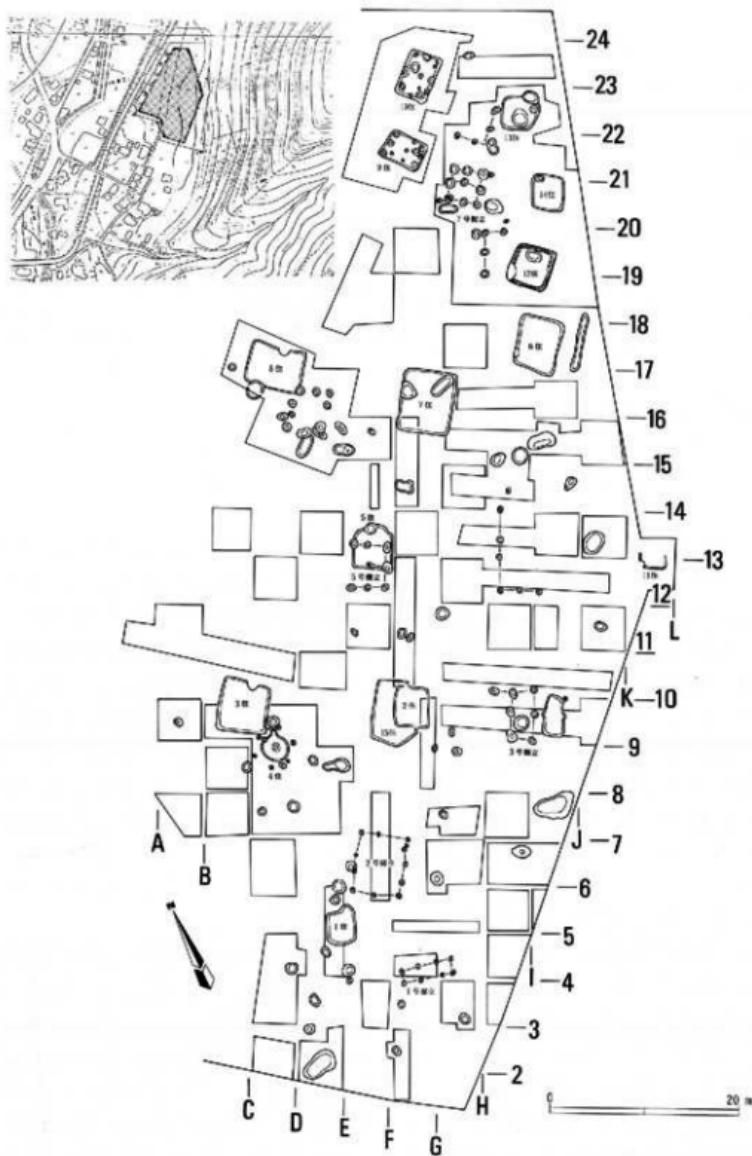
調査の結果、住居址15軒、竪穴状遺構1基、土坑61基、掘立柱建物址5棟、柵列3棟、集石土坑4基、墓坑1基、溝状遺構1基が確認されている。縄文時代の主な遺構については、4号住居址が前期末諸磯式期のもので、長径3.3m、短径3mを測る。住居址北側には突出部が見られ、柱穴は外側に7基検出されている。また、住居址中央には直径1mほどの落ち込みが見られ、覆土には炭化材が多く見られたが、炉の確認はできなかった。他に、縄文時代の遺構は陥し穴や集石土坑など数基が確認されているが、出土遺物は、前期末・中期中葉・後期の土器及び石器など多く見られることから、付近に該期の集落が存在しているものと考えられる。

次に、平安時代であるが、住居址15軒のうち14軒が該期の遺構で、9C後半～10C後半に位置付けられる。3号住居址は1辺が5.2m四方の方形を呈し、カマドは北側の壁に構築されている。遺物は、壺・壺・綠釉陶器・鉄斧などが出土している。綠釉陶器は内外面とも全面に釉薬が施され、みこみ部には陰刻文様が見られる。また、まだ整理中ではあるが、2・3・5・6・7号住居址からは墨書き土器が出土しており、「成」「乃」「余」「仲」「弓」「下」など数多く見られ、判読できないものを含めると、相当数にのぼると思われる。中でも「成」が3・5号住を中心として十数点確認されている。また、石製の硯が1点出土しているが、該期に伴うものか今のところ不明である。他の出土遺物も、壺・壺・灰釉の長頸壺・灰釉陶器・須恵器・鉄製品（鎌・紡錘車・刀子）・砥石などや、2号住居址からは、土鍤が5点出土している。掘立柱建物址や柵列なども、黒色土を掘り込んでおり、平安時代もしくは、それ以降に位置付けられると思われる。また、近世の墓坑が1基確認されているが、墓坑上部は削平されていたため、人骨も骨盤から下部しか検出されておらず、副葬品は「寛永通寶」が6枚確認されただけである。

本遺跡は、今回の調査によって平安時代を中心とした複合遺跡であることが確認された。今後、墨書き土器等を含め、郡内地域と他地域との差異を比較検討して行きたい。



九鬼II遺跡 位置図



九鬼II遺跡 全体図

9. 中谷遺跡

所 在 地 都留市小形山瀬木2335-1
事 業 名 リニア新実験線建設
調査期間 1993年4月20日～12月27日
調査面積 3,000m²
担 当 者 長沢宏昌、大谷満水、
吉岡弘樹、高橋みゆき

本遺跡は、桂川によって形成された河岸段丘のいわゆる大原台地の末端部上を東南方向に急勾配をもって桂川に合流する高川の蛇行で造られた小谷の中央部に位置する。

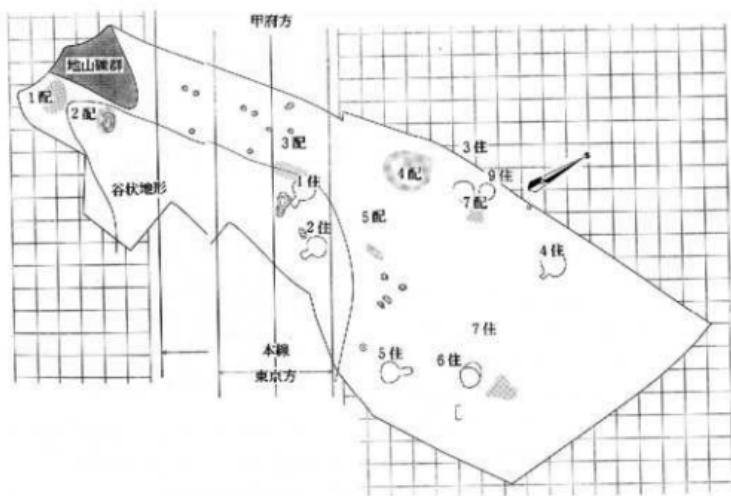
本調査は、リニアモーターカー新実験線建設に伴い、都留市小形山瀬木で実施された。調査範囲については、1992年度に行われた試掘調査から5,000m²をその対象とし、うち3,000m²の調査を終了した。

調査の結果、住居址9軒（縄文時代中期末から後期前半）・土坑16基（縄文時代前期及び中期以降）・配石遺構7基（縄文時代中期から後期及び晩期）・埋甕7基（縄文時代中期末から後期及び晩期）・屋外炉2基（縄文時代後期頃）・集石土坑2基（縄文時代）・石組溝1条（近世）が検出された。住居址は柄鏡形敷石住居7軒・竪穴式住居2軒で、保存の良好な焼失住居が確認できた（1・4号住）。1号住居址では、楕円形に近い居住部の周りに、30cm程の間隔で柱が全周していた。また、柱の部材は、太いものは半割、細いものは丸いままで使用していることが、炭化した柱材より確認できた。4号住居址は、居住部に縁石が全周するが、入口部がかなり狭く、人が横になってやっと通れる程の幅しか有していない。居住部内には、奥壁側に三日月状に石が敷かれ、その付近に3本・入口付近に2本、合計5本の柱穴が確認できた。さらに、これらの住居址からは、獸骨・歯等が検出された。この他に、特筆すべきものに、4号配石遺構がある。これは、一抱えもある大礫が外側を環状にめぐり、中心から西側ではロート状に石が敷かれ、東側には獸骨を大量に含む土坑が確認された。

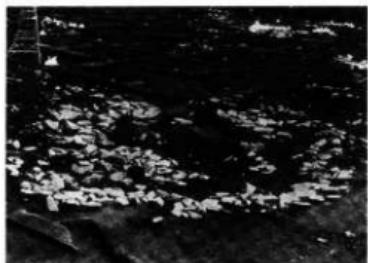
遺物は、縄文時代前期から晩期にかけての土器・石器、平安時代の土師器片、近世の陶磁器などが出土している。特に、調査区南側で確認された配石遺構（1・2号配石）の下層から出土した環状耳飾りや、多量の清水天王山式土器が注目される。清水天王山式土器は、県東部域を中心とした地域に展開する土器とされており、現在、その時間的・空間的位置づけの研究が行われている。本調査で、多量の清水天王山式土器が得られたことにより、その編年やバリエーション等の点において多くの成果が得られるものと期待される。なお、この他にも、縄文時代後期と思われる土器集中区が数ヶ所で確認された。今回の調査は、調査区の約三分の二程度であり、遺跡の分析、集落構造など詳細については調査完全終了後の課題としたい。



中谷遺跡 位置図



中谷遺跡 全体図



4号配石 検出状況



4号住居 検出状況



発掘調査風景



注口土器 検出状況

10. 中溝遺跡

所在地 都留市小形山大原7番地外
事業名 リニア新実験線建設
調査期間 1993年4月26日～8月30日
調査面積 3,100m²
担当者 長沢宏昌、高橋みゆき

本遺跡は、小形山地区を流れる桂川の左岸河岸段丘上に広がる東西約600m、南北約700mの南北に開けた大原台地の東側に位置する。

本調査は、リニアモーターカー新実験線建設に伴い本線部分橋脚建設に先立って、都留市小形山大原で実施された。本調査に先立ち、1993年4月26日～5月14日の期間で対象面積7,000m²の試掘調査を行った。この際、幅1.5mのトレンチを路線に沿って3本並列に設定し、東から西へ順次調査を進めることにした。又、本調査区は道路等で分断されているため、東からI・II・III・IV・V区を設定し、このうちII・IV区を本調査の対象とした。

調査の結果、縄文時代の住居跡7軒・土坑11基・集石3基、平安時代の住居跡3軒・土坑10基・小穴群1、近世の溝状遺構1条が検出された。

I区では、縄文時代前期頃の集石土坑が3基検出できた。

II区では、縄文時代早期末の住居跡7軒・中期の土坑1基・時期不明の土坑2基、近世の溝状遺構1条が検出された。遺物は、住居跡内からは塩谷式土器の他、関東地方の下吉井式土器も出土している。中でも塩谷式土器に伴って出土した滑石製の玦状耳飾りは、これまで富山湾地方を中心とした地域では知られているが、それ以外の地域では、長野県カゴ田遺跡等数例だけがあり、該期の新資料として特筆すべきものである。

III区では、縄文時代の土坑が8基検出できた。

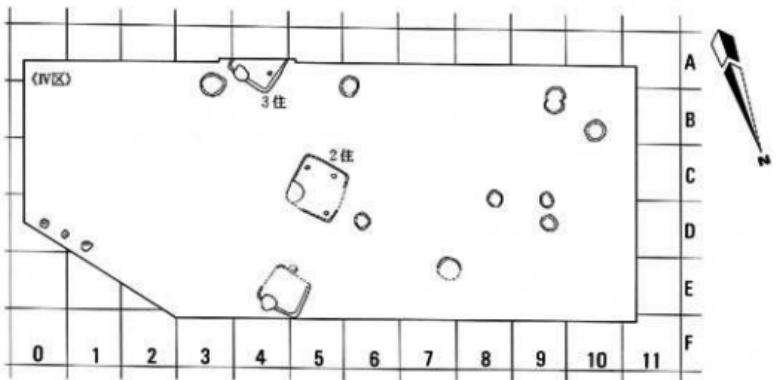
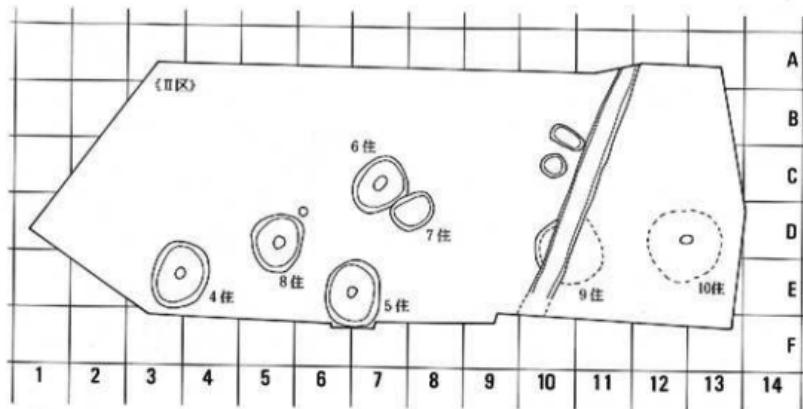
IV区では、縄文時代の土坑が1基、平安時代の住居跡が3軒・土坑10基が検出された。出土遺物は、住居跡の竈の周辺から壺や甕の破片が数点出土し、土坑からは、炭化した種子や球根類を多く検出することができた。

V区では、遺構・遺物とも検出できなかった。

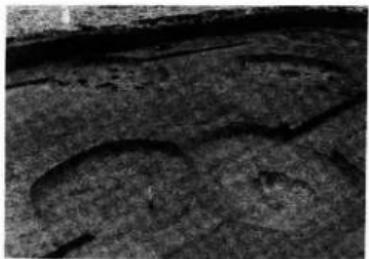
本遺跡では、圃場整備で整地されていたにもかかわらず、覆土が厚かったため、遺跡の保存状態が良く、良好な資料を得ることができた。また、大原台地の中央では、縄文時代中期の集落が確認されており、今回調査された縄文時代早期と合わせて、小形山地区の縄文時代を考える上で貴重な資料を提供することができた。



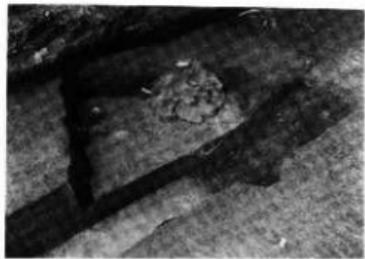
中溝遺跡 位置図



中溝遺跡 II・IV区造構 配置図



II区 完掘状況（部分）



IV区・1号住居 検出状況

11. 揚久保遺跡

所在地 都留市小形山字大原溝上外
事業名 リニア新実験線建設
調査期間 1993年11月1日～11月30日
調査面積 2,400m²
担当者 長沢宏昌、大谷満水
吉岡弘樹、高橋みゆき

本遺跡は、桂川左岸に迫る山の頂から北東に向けて発達する幅約150m、長さ500m程の緩やかな谷底平地の中央部に位置する。

本調査は、リニア新実験線建設事業に伴って、昨年度に引き続き実施したものである。

今回は、試掘調査で4ヶ所(D・E・F・G)、本調査で1ヶ所(H)の計5ヶ所を対象とし、その結果、試掘分については遺構・遺物とも確認できず、本調査分については時期不明の円形土坑を1基検出したのみであった。なお、全体図に示したaは、18世紀末に構築された『二ヶ堰水路』の一部で、今後写真測量等による調査が必要であると思われる。



揚久保遺跡 位置図



揚久保遺跡 全体図



本調査部分全景



G区 近景

12. 丘の公園第7遺跡

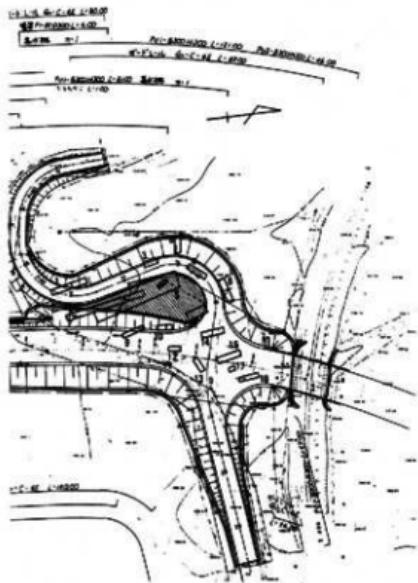
所在 地 北巨摩郡高根町念場原3545番
 事 業 名 県道須玉・八ヶ岳公園線建設
 調査期間 1993年4月20日～5月24日
 調査面積 564.5m² (3,000m²)
 担 当 者 山本茂樹、野代幸和

本遺跡は、八ヶ岳南東麓にあたる通称念場原の台地上にあり、南へ緩やかに傾斜する森林である。

調査区域内に17ヶ所の試掘坑を設定し、この試掘坑から確認できた遺構は、炭焼窯である。規模は、長径4.85m短径1.60m、確認面からの深さは最大で0.25mを計測する。形態は長方形を呈し、長軸方向の中央部分に溝を有するものであった。なお遺物に関しては、全く見られなかった。念場原は、『甲斐国志』の記述によれば、中世に念場千軒と称されて栄えていたということから、今回発見された炭焼窯の存在の意義は大きいものであるが、時期の決定は、化学分析の結果を待ってからとなる。



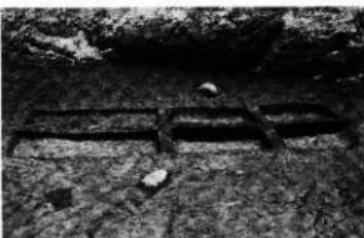
丘の公園第7遺跡 位置図



調査区全体図 (1/2000)



調査風景



炭焼窯跡

13. 甲府城跡（県指定史跡）

所 在 地 甲府市丸の内一丁目5番地内
事 業 名 舞鶴城公園整備事業
調査期間 1993年4月8日～
1994年3月31日
調査面積 4,500m²
担 当 者 八巻與志夫、村松利恵子
柏木秀俊

本調査は、山梨県土木部によって平成2年度から着手されている、都市公園舞鶴城公園整備計画に伴った調査の4年次である。

本年度は、本丸北西石垣及び天守台石垣の解体に伴う発掘調査と石材調査、今後解体予定の坂下門石垣周辺の発掘調査、建造物復元に向けての鉄門・銅門・鍛冶曲輪門の発掘調査、公園の環境整備事業に伴う鍛冶曲輪の発掘調査を実施した。以下、各調査箇所ごとにその概要を記す。

1 本丸北西 昨年度末からの継続調査である。昨年度末の調査では、浅野家の家紋の“違い鷹の羽”の線刻鬼瓦、柳沢家の“四つ花菱”的鬼瓦が瓦溜め中より出土した。さらに鬼の顔をかたどった鬼瓦も検出されたが、近年のごみ焼却のための穴で攪乱された部分から出土してお



甲府城跡 位置図

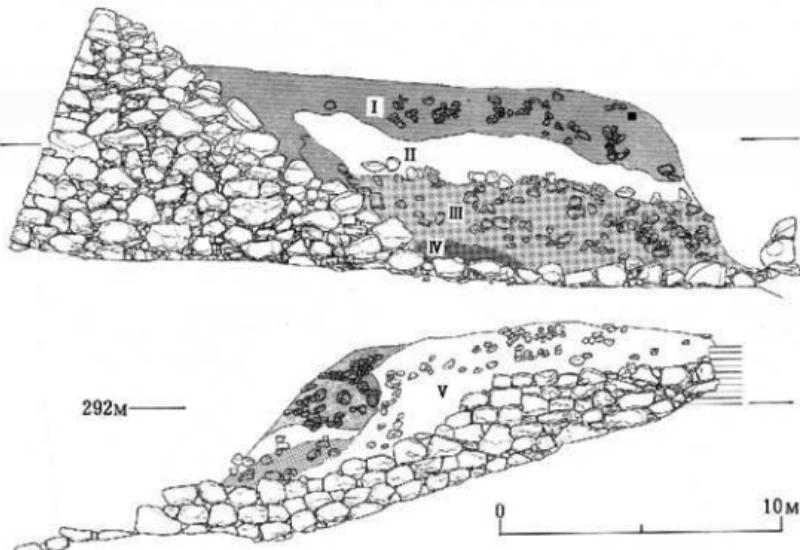


調査箇所 位置図

り、瓦溜めの膨大な瓦が使用されていた時期は確定し難い。今年度の調査では本丸に巡る腰石垣に平行する形で、南北方向に4本東西方向に1本の石垣が検出された。いわゆる穴太積みと呼ばれている他の石垣に比べると、用いられている石材は非常に小さい。しかしながら人為的に積み上げられており、すべておよそ1.5m程の高さを呈している。時期的には、築城期のものあるいはそれ以前かと思われるが、遺物を伴わず確定はできない。構築目的についても明確ではない。石垣解体時には本丸の北側へ向けて排水のための暗渠が6m検出され、工事にあたって、旧状に復した。石垣解体後の裏盛土の調査では、下図に見るように、拳大から人頭大の礫の栗層I、粘性土層II、50cm前後の礫の層III、地山の直上の粘性土層IVが層位的に確認され、礫層と粘性土層が互層となり本丸が構築されていることが検証された。江戸中期に積み直されたと思われる西側では、I～IIIが混合されたような状態Vで、積み直し時に裏盛土については何のメンテナンスもせず積み直したことが窺え、それが再び石垣が傷んだ要因の一つと考えられる。

2 天守台 昨年度調査した部分を除く全体の $\frac{2}{3}$ について調査を実施した。公園利用としての擾乱がひどく、表土を剥ぐと約10cmで栗層に達し、部分的には栗層にまでごみ焼きの跡が残っていた。表土中よりわずかに金箔が確認できる銚瓦の破片が一点出土した。石垣の解体に伴って石垣裏を調査したところ、本丸などと異なり、盛土ではなく全て礫で構築されていた。階段の解体では、茶臼の一部が出土している。

3 銅門 既に地表に現れていた4石を含め、門の礎石が7石確認された。そのうち一石は門の控え柱のものと思われる。



本丸北西石垣裏盛土土層図（上）本丸北側（下）本丸西側

4 鉄門 銅門と同様に調査前から確認されていた5石を含めて10石の礎石が明らかとなり、さらに雨受けの側溝が検出された。側溝は両側が石組みで底は粘土が張られている。門をくぐり本丸へ上がった部分では、比較的大きな礎と棟瓦を含む瓦層が検出され、その直下には本丸の江戸期の地形面が確認できた。西側の謝恩碑建設時に本丸の大規模な造成が行われたことが想定される。

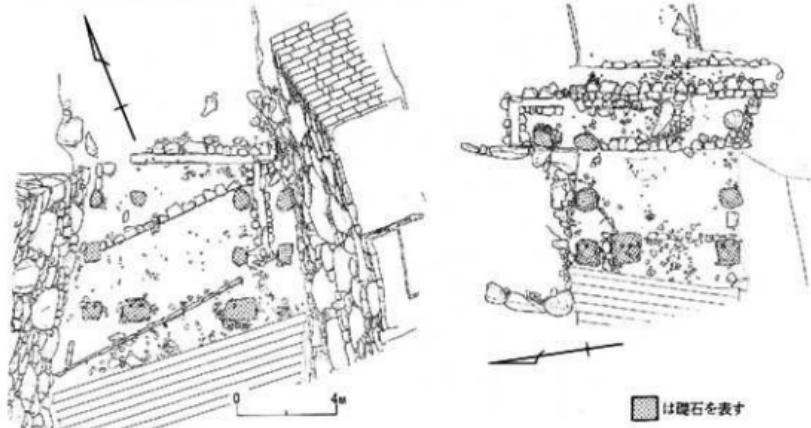
5 天守曲輪 調査区の北側、本丸を構成する南側石垣の根石周辺では地山が検出され、北側から南側へ傾斜する形で、天守台・本丸を頂点とした安山岩の自然の小山が利用されたことを証明している。遺物は瓦が出土しているが現在まだ調査中である。

6 坂下門 表土から30cmで調査区前面にわたって瓦層を確認した。軒瓦は棟瓦をほとんど含まず軒丸軒平瓦がほとんどであったことから、一括して廃棄された時期をある程度想定することが可能であろう。瓦層の直下から江戸期の地形面が検出された。

7 鍛冶曲輪門 絵図には四脚門であったとの表記がなされている。公園内側の建物へのガス管・水道管や古い電話の配線管などもすべて門をくぐるように埋設されており、発掘調査では礎石が抜かれた跡が一か所確認できた。樹形の石垣は幸い残存状態が良好なため、門の復元に向けては十分なデータを得たと言えよう。

8 鍛冶曲輪 かつて花時計があった部分を中心とする自由広場の調査である。花時計部分では黒色の粘質土層から金箔が付着した瓦が一点と朱が付着した瓦一点が出土した。金箔瓦が出土した周辺からは、人質曲輪で金箔瓦が出土した際に共伴した軒丸軒平瓦と同じタイプのものが多量に出土しており、築城期の建築物を飾っていたまとまった量の瓦が廃棄されたと考えられる。堀に面した腰石垣の天端では、堀の柱穴が5箇所3m間隔で確認できた。

なお本遺跡は年度を越えて調査しているため、本稿は1993年2月15日から1994年2月18日までの調査状況を要約したものである。





本丸北西 検出された石垣



天守台栗層検出状況



天守台 石垣解体状況



鍛冶曲輪水路（西側上方より臨む）



本丸北西部暗渠（本丸側より臨む）



板下門瓦検出状況



鍛冶曲輪腰石垣天端セクション

14. 米倉山B遺跡

所在 地 東八代郡中道町下向山字米倉山
3911-6外

事 業 名 米倉山ニュータウン整備事業

調査期間 1993年4月12日～
1994年3月15日

調査面積 7,000m²

担 当 者 坂本美夫、一瀬新一郎



米倉山B遺跡・くちゃあ塚古墳 位置図

本遺跡の調査は一昨年から開始され、今年度は3年度目となる。調査位置は、山頂から東南東の尾根に所在し、標高320mから350mにかけての地点である。

今までの調査から、住居址52軒、方形周溝墓1基、竪穴状遺構2基、土坑21基、古墳3基、墓坑236基、貨泉1枚を出土した自然谷1本、芋穴43基、溝3本が、確認されている。

今年度の調査では、弥生時代末から古墳時代初頭の所産であろう住居址13軒、江戸時代の墓坑83基が確認されている。また、東西に走る自然谷の確認が終了した。

住居址は、一部は広範囲に点在しているが、多くは平坦部に集中している。また、自然谷の近くの小高い所に隣接している。遺物としては、弥生時代後期の壺や土器片が出土している。自然谷からは弥生時代末から古墳時代初頭の土器片が多数出土した。調査区の北側付近から、去年に引き続き、江戸時代中期以降の墓坑83基を検出した。これらの墓坑は、径が90cm前後の円形を主体として、縦110×横70cm程度の方形のものも存在する。副葬品として、キセル、寛永通寶、漆器（漆膜片のみ）、かわらけ、陶磁器が多く見られる。この他火打金、水晶、くるみ殻、櫛、かんざし、飾り金具、メガネなどを伴うものもある。

以上のことから、米倉山B遺跡は、弥生時代には集落遺跡が存在し、江戸時代には、佐久、松本、金沢の村地（入会地）の墓地であったと考えられる。



発掘作業風景



米倉山B遺跡北側全景写真

くちゃあ塚古墳

当初、清水1号墳と名付けて調査をしてきたが、その後、付近の古老の話から、本墳が最近まで、“くちゃあ塚”（口開塚？）と呼ばれてきたことが明らかとなった。

くちゃあ塚古墳は、米倉山の南東斜面の標高320m付近に所在し、米倉山B遺跡より南西1kmほどに位置する。

本墳は、やや急な斜面に造られた円墳で、石室は主軸を斜面と同方向にとり、南に開口している。古墳の規模は、周溝がはっきりしないため明確とならないが、およそ直径8mほどと考えられる。

石室は洞張りの無袖型横穴式石室であり、全長5m、奥壁幅0.8m、中央部幅1m、羨門幅0.8mほどを測る。床は直径10cmほどの比較的小振りな石で敷石とする。羨門部には、幅いっぱいに閉塞石が置かれ、これから約1m奥まった所には仕切り石が見られる。副葬品には須恵器壺などがある。築造年代は7世紀後半ごろと考えられる。



くちゃあ塚全景写真

15. 唐松遺跡

所在地 北巨摩郡双葉町宇津谷
事業名 宇津谷ニュータウン建設事業
調査期間 1993年5月6日～
1994年1月8日
調査面積 5,500m²
担当者 五味信吾、石神孝子

甲府盆地の北に連なる茅ヶ岳の裾野は、八ヶ岳泥流及び南流する富士川・塩川に分断さ



唐松遺跡 位置図

れ、河岸段丘を形成しているが、本遺跡はその段丘上のなだらかな部分に位置する。遺跡周辺には縄文時代中期の宇津棟遺跡や駒沢遺跡などが分布し、該期の集落の存在が想定されている。

本遺跡の発掘調査は、山梨県住宅供給公社の「宇津谷ニュータウン建設事業」に伴い、昨年度の第1次調査に引き続いて実施された。すでに第1次調査において西南端部の調査が終了しているため、本年度第2次調査ではさらに北東部の5,500m²を対象とした。今回の調査区は北東から南西へ緩く傾斜している。標高は最高地点で382mを測り、最低地点との標高差は約2mある。本遺跡は全体的に覆土と確認面の区別がつきにくい土質であるため、特に住居址の壁面及び床面の遺構を確認することが極めて困難であった。

検出された遺構は、縄文時代中期の住居址7軒、土坑101基が主なものであるが、その他竪穴状遺構、炭焼窯や後世の溝が存在する。この縦横に走る溝は近年まで畑作時の地境として利用されていたと思われる。住居址は中期の勝坂期から曾利期と考えられるものが4軒集中しており、それが土坑を取り囲むように位置している。また第1次調査区からは中期初頭の五領ヶ台期の住居址2軒が検出されていることを考慮すると、中期初頭には南西地区に、中期中葉から終末には北東地区に集落の中心があり、時期による集落の移動があったことが推測できる。土坑は住居址の中心部に特に密集している。勝坂期から曾利期のものまでが検出されており、本遺跡が中期全般にわたって営まれた集落であることが確認された。また土坑は石皿、凹石などを伴うもの、完形土器を含むもの、土器の破片を多量に含むものなどに大別できる。

遺物は土器、石器が大多数を占める。このうち、土器は非常に脆く、表面が磨耗しているものが多い。ほぼ完形の土器は土坑からの出土が多く、時期は勝坂期後半のものが目立つ。一方、石器は打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石、凹石、石匙などが出土している。とりわけ打製石斧の出土量は極端に多く、また蜂の巣石や石皿未完成品などを石臼炉の石に転用したものもある。また本遺跡では土偶の出土量が比較的多く、脚部や頭部、腹部などが複数出土した。とくに第49号土坑からは頭部1、腹部1、胸部2の合計4点の土偶の破片が出土したが、そのいずれも同一個体ではなく、土偶の使用の在り方を考える上で興味深い事例である。その他の特殊遺物は耳栓や石製垂飾、水晶片などがあげられる。



唐松遺跡全体図（縮尺 1/600）（数字は住居跡番号）

16. 大明神遺跡

所在地 南巨摩郡増穂町字大明神50外
事業名 富士川西部広域農道建設
調査期間 1993年9月6日～11月16日
調査面積 300m² (1,400m²)
担当者 森原明廣・宮里 学

櫛形山より湧きだし富士川に注ぐ利根川の左岸に本遺跡は位置する。この付近は、利根川の扇状地が特に発達し、戸川・秋山川の扇状地と幾重にも重複しあう複合扇状地である。その東側は富士川までが広がり2／100～5／100の勾配で東に傾斜している。

1993年5月、建設予定地1,400m²中の約10%を試掘調査した結果、古墳時代から近世までの遺物が多く出土し、同年9月より本調査を開始した。調査区は農道建設に伴う調査のため幅10m×140mの細長い範囲となり、本年度は第1次調査区として南端の約300m²について実施した。

検出された遺構は、縄文時代早期に属する集石遺構1基、古墳時代前期に属する住居址1軒、時期不明の土坑13基・ピット17・溝3条・焼土遺構1基・集石遺構2基である。

縄文時代に属するのは3号集石遺構のみである。掘り込みは確認されなかつたものの、5cm前後の割れ礫が集中し、その上に散在する状態で土器片十数点が検出された。いずれも縄文早期末に属する東海地方の条痕文土器（入海・関山式段階）である。山梨県地域における該期の土器資料の出土例は非常に稀薄な状況にあり、今後の研究に資するところは大であると言えよう。

古墳時代に属るのは1号住居址のみであり、推定規模は5.2m×4.3mを測る。柱穴は検出されたものの炉など検出されていない。床面からは土器資料が数個体が出土し、その内容は、壺形土器や・器台形土器・台付壺形土器などである。なお、台付壺形土器の中には所謂「S字状口縁台付壺」の資料も含まれており、時期決定の好資料となろう。

また、遺構外出土の遺物には、縄文中期・後期の土器片や器長22cmを測る大型の打製石斧、中近世の陶磁器片等が検出されており、今後の発掘調査や整理調査において本遺跡の性格を明らかにしていくものと考えている。なお、本年度調査区の北側部分における試掘調査では、径60cm大の丸礫を積み上げた石垣状遺構が検出された。時期・性格は不明だが、積上げ方法や出土遺物からは中・近世の所属年代が与えられる可能性もあり、本遺跡の南にある明王院に伝わる享保年間の『明王寺境内全図』にある「別院」の遺構との関連性も考慮される。

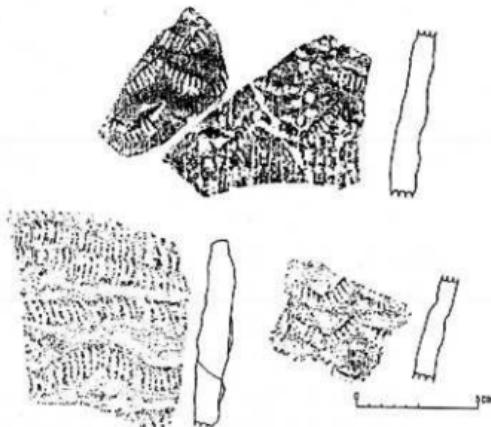
本年度調査は僅か300m²に留まったが、多くの遺構が確認されると同時に縄文・古墳時代にわたり東海系の土器を伴出するなど山梨県内への人と物の移動・交流を想起させる良好な資料を提示することとなった。来年度以降の調査に期待が持てると言えよう。



大明神遺跡 位置図



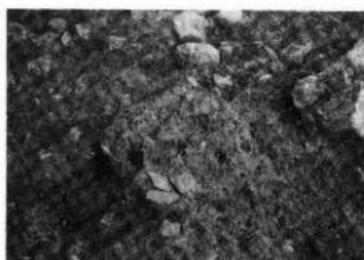
発掘調査風景（南より）



縄文時代早期土器片



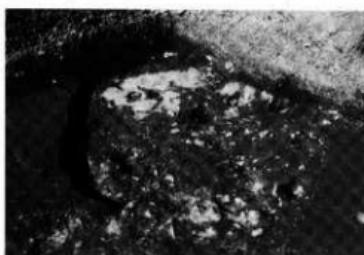
1号住居址 遺物出土状況



3号集石遺構（縄文時代早期土器片出土状況）



1号住居址 発掘作業風景（東より）



1号住居址（東より）

17. 東河原遺跡

所在地 甲府市池田一丁目-6
事業名 県立看護短期大学建設
調査期間 1993年5月27日～9月2日
調査面積 950m² (2,850m²)
担当者 森原明廣、宮里 学

秩父山地より昇仙峡を南下、甲府市街を貫流し笛吹川に合流する荒川の右岸扇状地に本遺跡は位置し、標高は約280mを測る。

本遺跡から荒川を隔てた千塚・湯村地域には、音羽遺跡や櫻田遺跡をはじめとした古墳

時代～平安時代の集落遺跡あるいは後期古墳が多く存在している。しかしながら、本遺跡の周辺である池田地域の遺跡分布状況等については不明点が多く、低地を利用した水田址や集落遺跡等が分布しているであろうことが予測されている程度であったと言える。

この様な地域において、新たに「県立看護短期大学」の建設設計画が立てられ、1993年4月下旬に試掘調査が実施された。この結果、時期不明の水田址が3ないし4面確認され、同年5月下旬より本調査を開始した。調査は校舎建設地を対象とし、北側の調査区A区(390m²)と南側B区(560m²)に分割して行い、A区I～III面・B区I～III面の順で合計6面を調査した。

A区I面は低い畝状遺構(高さ5～15cm)が同一方向(東西方向)で延びるという類例の極めて少ないと見られる形態の水田址である。しかし、これについては単純に「水田址」と考えることは困難であり、畝状遺構については特に「畑作」との関連性も考慮する必要がある。A区II面はI面とほぼ同様の形態であるが、畝の方向軸が南方向へ若干ずれる点で異なる。しかし、A区I面とII面はその形態にほとんど差がないことから、耕作時期にあまり時間差がないことが推測できる。A区III面は調査区西側で高さ約30cmの大畦で高低差をつけ、上部にはI～II面よりもさらに間隔の狭い小さい畝状が存在する。下部には石組みを伴う大畦をもって1区画をなす水田が存在している。また、下部の水田の東端と西端の大畦の際には小規模な水路等が確認され、水田耕作の一様相を示しているものと考えられる。

B区I面はA区I～II面と同様に低い畝状遺構が同一方向(南北方向)で延びる水田址である。その性格の捉え方もA区I～II面と同様であり、同一面として連続する可能性もある。しかし、畝状遺構の延びる方向がA区I～II面と大きく異なる点には注意を要する。B区II面はI面と同様の畝状遺構を有するが、石組みを伴う大区画の水田も併存している。B区III面はA区III面の下面と同様に大畦で区画されるものである。ただし、一区画の面積が若干狭い傾向がある。

出土遺物の所属年代は、古墳時代から近世までの多岐にわたっている。各水田面の時期を確実に決定できるような遺物の出土は認められないが、少なくともA区III面およびB区III面から



東河原遺跡 位置図

は、18世紀代以降の煙管・寛永通宝・陶磁器など近世後半に所産をおく遺物が主体的に出土している。現時点では近世後半以降に営まれた水田址であることが分かるのみであるが、今後の整理調査を経て、各水田面の時期やその性格を明らかにしていきたい。



A区 I面全景（北より）



B区 I面全景（南より）



A区 II面全景（北より）



B区 II面全景（南より）



A区 III面全景（北より）



B区 III面全景（南より）

18. 日影田遺跡

所在地 北巨摩郡高根町下黒沢
字日影田2301外
事業名 県営高根南団地建設
調査期間 1993年6月21日～10月8日
調査面積 5,000m²
担当者 今福利恵、沢登正仁

緩やかに傾斜した八ヶ岳南麓の裾野で、富士川と須玉川に開析された台地上に日影田遺跡は位置する。周辺は、八ヶ岳中腹あたりの湧水地から流れる甲川と油川にはさまれたやせ尾根状の地形となり、遺跡のすぐ東側を甲川が流れる。遺跡は、標高630m程の南に緩く傾斜したわずかな起伏をもつ尾根上に立地している。

発掘調査は、調査区全体の約9,000m²に試掘を行った結果、全体に遺跡が確認された。このため、一部に樹木を残す部分も含めて、本年度工事分の約5,000m²を対象に調査を実施し、他は平成6年度以降とした。土層は基本的に、上から表土（1層）が約20cm、暗褐色土（2層）が10cm程の厚さで堆積し、以下暗黄褐色のローム（3層）となる。遺構・遺物は2層下部から3層上部にかけて確認することができる。結果としては縄文時代中期を中心とした集落跡と近世に関わる遺構・遺物が発見された。

縄文時代の遺構は、中期初頭（五領ヶ台式期）の炉址5基と土坑、中期後半（曾利I式期）の住居址1軒を確認した。住居址は長径約6m程の楕円形を呈し、石圓炉と地床炉をもつ。中期初頭に位置づけられる炉址は、いずれも住居址に伴うものではなく、それぞれ五領ヶ台式の土器片を伴って単独で検出された。これらは、炭化物を多く伴いながら焼土のみられる地床炉で、周囲に焼蹠がある程度まとまるものである。遺物は調査区全体に中期の土器片が多く出土した他、後期に属するものもみられ、また打製石斧・石鎌・黒曜石等が検出された。

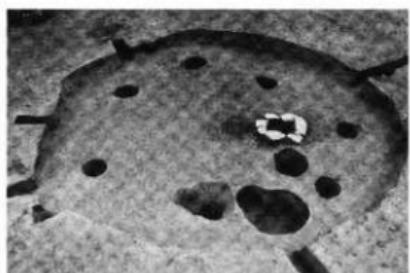
近世の遺構は畦状遺構1ヶ所・溝状遺構3条・竪穴状遺構3基・貯蔵穴2基・井戸状土坑3基・墓坑1基が確認された。畦状の遺構は明らかに耕作痕とおもわれる。他の溝状遺構は使用用途不明である。貯蔵穴2基は隣接しており、壁面には粘土が貼られ、周囲のピットから建物を伴うものと考えられる。墓坑からは寛永通寶・キセル・植物織維製の小物入れ・胡桃・チャート等の副葬品と共に成人男性人骨が良好な状態で検出された。近世の遺物は陶磁器片・内耳土器片・石臼・キセル・鉛玉（火繩銃の玉）・砥石等が出土している。陶磁器片・キセル等から17世紀以降の近世の遺構と判断した。



日影田遺跡 位置図



日影田遺跡 全景



1号住居址



遺跡北側から中央部



調査状況



11号土坑（墓坑）

19. 北中原遺跡

所 在 地 東八代郡一宮町塩田字北中原
596-1外

事 業 名 県営塩田団地増設

調査期間 1993年11月17日～12月27日

調査面積 1,000m²

担 当 者 山本茂樹、今福利恵
野代幸和、沢登正仁



北中原遺跡 位置図

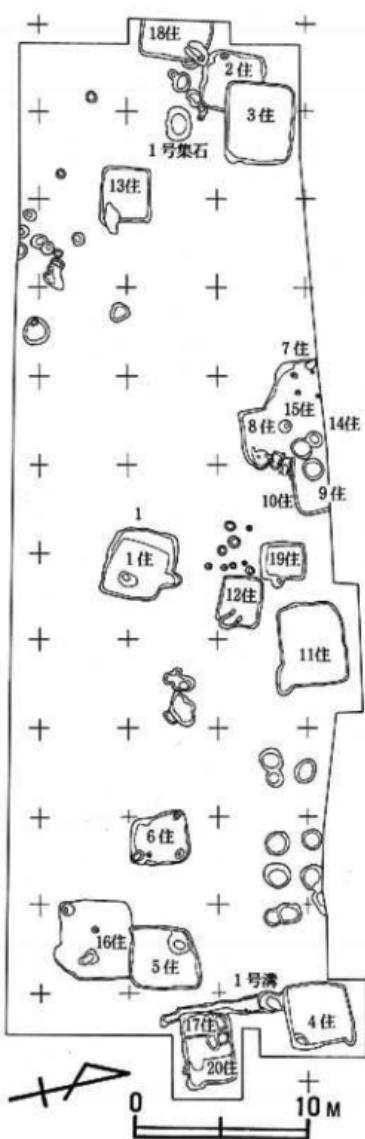
北中原遺跡の立地する一宮町は、甲府盆地東部・県中央部を北東から南西に走る御坂山塊の北側に位置し、笛吹川支流の金川・日川・

御手洗川などによって複合扇状地が形成されている。北中原遺跡は、これらの扇状地のうち金川流域に形成される、金川扇状地のほぼ扇央部に位置している。標高は378mを測る。すぐ南側には東西方向に走る中央自動車道があり、調査区周辺は桃とぶどう畑、そして宅地として利用されている。

この地は、古代甲斐の国の中心地として栄えたため、国分寺跡や国分尼寺跡などの史跡が数多くある。また北堀や笠木地蔵といった平安時代の大集落の遺跡も存在しており、本遺跡も試掘前の段階から、遺構・遺物が発見されることを確実視されていた。

団地増設用地のうち今年度着工分の約1,000m²の部分のみ本調査を実施した。調査区内は果実園などの畠地として利用されており、その所々で灌漑用のパイプなどの敷設による擾乱が多くみられ、しかも中央付近には土石流によるものとみられる礫が混入するところがあり、遺構の遺存状態は極めて悪いものと考えられていたが、予想以上に良好な状態であった。

調査の結果、以下のような遺構や遺物を発見した。まず遺構については縄文時代前期後半（諸磯b式期）の土坑6基、平安時代後葉から末葉段階の住居址21軒、平安時代から中世にかけての土坑23基、平安時代以降に位置づけられる溝1条や河川の跡などがそうである。遺物として、縄文土器片・杯（甲型を含む）や皿や甕・羽釜等の土師器類が大多数である。その他には、灰釉陶器・須恵器・布目瓦・綠釉陶器・鉄器（刀子・釘）・古銭（北宋錢）・中世以降の陶磁器・火起こしに用いたと思われる水晶や石英塊が出土した。須恵器の中には、大甕の胴部破片を用いて硯に転用された形跡のものがあった。土師器のなかにも墨書き器があった。遺構全体の特徴を考察すると竪穴住居内の竈の設置された方向が北東及び南東方向であること、住居の切り合い、土師器の編年から少なくとも3～4期において継続的に集落が営まれてきたことがわかる。また布目瓦の出土から国分寺との関連も想像できる。いずれにせよこの地にかなり大規模な集落が存在していることが明らかとなった。



北中原遺跡 全體図



北中原遺跡全景



13号住居址



調査風景

20. 甲ッ原遺跡

所 在 地 北巨摩郡大泉村西井出字大林
8845番地
事 業 名 県道須玉・八ヶ岳公園線建設
調査期間 1993年6月1日～10月8日
調査面積 1,000m²
担 当 者 山本茂樹、野代幸和

八ヶ岳を北西方向に仰ぐ甲ッ原遺跡は、県道須玉・八ヶ岳公園線の建設に伴い、1989年度から5次にわたり発掘調査を行ってきた遺跡である。立地的には油川と甲川に挟まれた

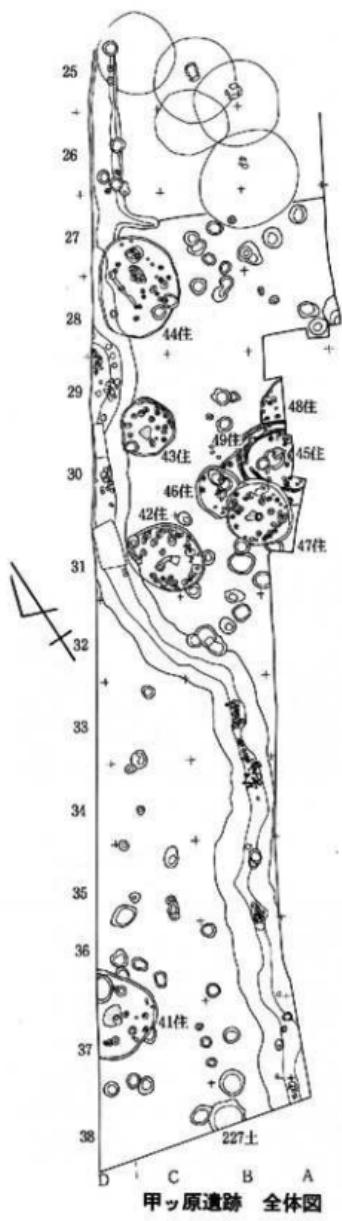
台地上の、やや緩やかに傾く南側斜面、標高約790mに位置している。本遺跡周辺には、天神C遺跡・寺所遺跡・御所遺跡・金生遺跡・姥神遺跡など縄文時代を主体とする遺跡が数多く存在している。今回の調査に至るまでに確認された遺構は、住居跡では縄文時代前期初頭1軒、諸磯期12軒、中期初頭4軒、猪沢期3軒、藤内期7軒、戸尻期13軒、曾利期22軒、時期不明11軒、平安時代3軒である。その他に掘立柱遺構6基、溝、土坑が多数発見されている。

今回の調査対象地は、桑畠などに利用されており、調査区の南側ではトレンチャーによる擾乱が多く見られる。また表土から遺構確認面までは非常に浅かったため、遺構の遺存状態は非常に悪いものと考えていたが、重機を使用せず人力で表土の削除を実施した結果、かなり良好な状態で確認することができた。今年度の調査において発見できた遺構の内訳は以下のとおりである。住居跡では縄文時代前期後半（諸磯b式期）6軒、中期初頭（五領ヶ台II式併行期）3軒、中期後葉（曾利V式期）2軒、該期に属する土坑およびピットなどが72基、平安時代以降の溝である。諸磯b式期の住居跡は調査区の北側に集中している。規模については小型のものが多い。ピットの配列から大部分のものは南側に入口を持つものと考えられる。本調査区の西側に平行して走っている道路からも該期の遺物がかなり出土したことであるので、本地点を中心にはほぼ環状に集落を形成していた可能性が示唆される。五領ヶ台II式併行期では、遺構の配置に規則性がなく、間隔をおいて存在していることがわかる。ピットの配置についても規則性がない。41住は極めて特異な例であり、規模・形態ともにしっかりしたものである。周辺には該期に属する土坑が集中している。曾利V式期の住居跡は重複した状態で、単独で確認された。その他に中期後葉から後期初頭段階に位置づけられる227土坑がある。これは調査区の南端で発見されたもので、規模は最大径1.8m、最深部で1.2mを測る大型のものである。形態は袋状を呈している。覆土にはロームブロック、焼土や炭化物が多く含まれており、短期間のうちに意図的に埋められた形跡が見られた。また中層付近からは欠損した大型の石棒などが発見されている。

遺物として特筆すべきものには、日本海沿岸部で特に発見されている彩文土器（赤漆や黒漆を顔



甲ッ原遺跡 位置図



料として土器の表面に描いたもの) の破片がある。同種のものが天神C遺跡からも出土しているが、今回発見されたものは極めて良好な状態であり、彩られた文様が全く剥離せずに認められた。他に直剪鎌(黒曜石製)、炭化種子(ドングリ・栗・クルミ)などがある。これらのものは、縄文時代前期後半(諸磯b式期)に位置づけられるものであり、他地域との交流関係や食生活を考える上で、県内はもとより全国的にも貴重な資料である。



表土削除状況



41住 調査状況



45~49住 精査状況

21. 上の平遺跡・東山北遺跡・
銚子塚古墳南東部試掘調査

① 上の平遺跡（第6次）

所在地 東八代郡中道町下向山字上ノ平

1069-1外

調査期間 1993年5月6日～7月23日

1993年8月30日～11月26日

調査面積 627m²

② 東山北遺跡（第4次）

所在地 東八代郡境川村寺尾字間門163外

調査期間 1993年4月19日～4月30日

調査面積 179m²

③ 銚子塚古墳南東部試掘調査

所在地 東八代郡中道町下曾根字山本874

〃 中道町下向山字東山1393外

調査期間 1993年7月19日～7月26日

調査面積 746m²

事業名 甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備

担当者 末木 健、村石真澄

① 上の平遺跡

甲府盆地の南縁に発達する曾根丘陵の中央に、標高340.2mを測る東山がある。この丘陵上（標高約334m）の平坦面に上の平遺跡は立地する。今回の調査以前には、1979年より1986年までの間に5次にわたって調査がおこなわれ、縄文時代の住居址23軒・土坑117基、弥生時代の住居址18軒・方形周溝墓124基、平安時代の住居址3軒などが報告されている。今回の調査は、甲斐風土記の丘公園の外周道路の整備に伴い現農道下の幅約3m、延長約168mの細長い調査区およびこの東に隣接する南北18m、東西17mの買収地であり、第4・5次調査区の東側に隣



上の平遺跡・東山北遺跡
銚子塚古墳南東部試掘 位置図



上の平遺跡南半全景（北から）



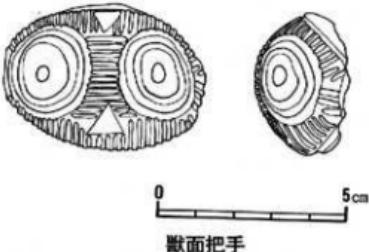
上の平遺跡北半全景（北から）

接し丘陵縁辺部の緩斜面にあたる。

確認面より約20~30cmのレベルに断続的に黒色帯（立川ローム層第2暗色帯に対比される）が存在し、また多くの部分で耕作がかなり深くまで及んでいるために遺構の確認作業は難渋した。しかし農道下のため深い耕作を免れた細長い調査区では、遺構の遺存が比較的良好であり、とくに北よりの部分では方形周溝墓、縄文時代の住居址、土坑などが非常に重複した状態で検出された。これと対応に南に向かって傾斜する部分では埋設電線があるため、トレンチを断続的に入れたが遺構は検出できなかった。今回の調査では、縄文時代中期初頭の住居址10軒・中期中葉の住居址2軒・竪穴状遺構約6軒・袋状土坑3基をはじめとして土坑約70基、弥生時代の住居址1軒、方形周溝墓5基（ただし新たに検出は1基）を確認した。方形周溝墓を新たに発見したことにより、墓域がさらに丘陵縁辺部まで広がっていることが明らかになった。

注目すべき遺物としては、縄文時代中期初頭のフクロウを思わせる獸面把手、発見例が全国で10数例ほどの「の」字状石製品、三叉状磨製垂飾、大型の屈折像土偶の脚部をはじめとして、土偶の頭、胴、手、足などの破片計16点、土製玦状耳飾2点、石英製の叩石、線刻のある石皿など多彩なものがある。

縄文時代前期末から中期後半までの各時期の住居址の存在することと方形周溝墓の保存のための未調査部分などを考慮すると、この上の平遺跡は弥生時代の方形周溝墓ばかりでなく、縄文時代の集落址としても注目すべきものであることが一層明らかになってきている。



東山北遺跡調査風景（南から）

② 東山北遺跡

曾根丘陵上の東山（340.2m）の北東方向に東山北遺跡は位置し、眼下に甲府盆地を見下ろす北向きの舌状台地上（標高約30m）に立地する。1990年度より発掘調査が行われており今回は、4次調査にあたる。1～3次調査では、県内最大クラスの規模（東西約36m、南北約31m）をもつ古墳時代前期の第2号方形周溝墓のほか、弥生時代後期の住居址27軒、土器焼成遺構1基、古墳時代前期の住居址1軒、方形周溝墓2基などを確認している。今回の調査は、当初の整備計画に於いて公園の外周道路がこの第2号方形周溝墓の周溝部分に当たるため、これを避けるために追加買収した部分を対象として行った。

第2号方形周溝墓の東側の中道町と境川村の境界付近から幅約1.5～4m、深さ約0.6～1mで延長約35mにわたって近世以降の溝が検出された。この溝の覆土には、卯大の中環から人頭大を越える巨環を多量に含み、これらに混じって縄文時代前期と中期の土器・石器・弥生時代・古墳時代・平安時代の土器、近世以降の陶磁器などの遺物が出土した。これらで注目されるのは、馬具（鉄製轡）2点、水晶製勾玉1点、金銅製刀装具破片、鉄刀断片1点など後期古墳に伴うと思われる遺物と、古墳の石室に使用されていたとも考えられる加工痕のある巨環が認められることである。つまり、調査区の周辺に削平された後期古墳が存在し、その遺物が溝中に混入したものと考えられるのである。

③ 銚子塚古墳南東部試掘調査

調査地点は、国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の南縁から曾根丘陵に向かって立ち上がる北向きの斜面上に位置する。銚子塚古墳と丸山塚古墳は、1983・1984年度に保存整備事業の一貫として調査が進められ、その成果に基づき墳丘および周溝の復元が行われている。

今回の試掘では、先の調査が及ばなかった銚子塚古墳の南方に9本、丸山塚古墳の南方に5本、東方に10本の計24本のトレンチを設定した。その結果、丸山塚古墳の東方の第18と第21トレントレンチにて弥生時代後期末に属する土器底部などを検出した。この地区は曾根丘陵から笛吹川に向かって広がる小扇状地の縁辺にあたり、ゆるやかな傾斜をもつ平坦面であり、集落址が存在する可能性が強いと推測される。



銚子塚古墳南東部試掘調査

22. 古代官衙・寺院址詳細分布調査

所在 地	① 東山梨郡勝沼町勝沼字道上大善寺境内（井上哲秀住職） 大善寺 ② 東山梨郡御坂町成田字平行寺839（中川梅雄氏所有） 平行寺遺跡 ③ 東八代郡中道町心経寺字横手（柿嶋維男氏所有） 心経寺横手遺跡
調査期間	1993年12月13日～1994年1月11日 ① 1993年12月13日～12月21日 ② 1993年12月22日～27日 ③ 1994年1月10日～11日
調査面積	① 70m ² ② 18m ² ③ 12m ² 合計100m ²
担当者	末木 健、村石真澄

本年度は5ヵ年計画のうちの4年目にあたり、下記3ヵ所の試掘・確認調査を行った。

① 大善寺（だいぜんじ）

大善寺は、平安時代前期に古代豪族三枝氏によって建立された寺院と伝えられ、康和5年（1103）銘の経筒には「柏尾山寺往生院」と記されている。大規模な伽藍は幾度かの火災にあったものの、平安時代以降鎌倉・室町・戦国・江戸の各時代にも時の首長の庇護を受け、今日に至るまで、時代の変革に左右されず寺勢を維持している。

調査は仁王門の西側に4本のトレンチをいれ、また仁王門の東「正覚院跡」に2本のトレンチ、本堂東の護魔所と五重塔跡のそれぞれ1本づつのトレンチを入れた。「光明院跡」南のテラスからは遺構はないが、中世の土師質土器が出土した。正覚院跡では搅乱が多く、遺構・遺物は検出できなかった。護魔所からは焼土と土師質土器の小破片が出土している。伝五重塔跡付近からは石段が検出された。この石段は下方を、行者堂に向かう石段に切られているが、検出地点より更に上に続く造構である。

② 平行寺遺跡（はんぎょうじ）

この寺は文献に記録のない寺で、布目瓦の採集によって想定されたものである。遺跡は国道137号の東側で、国衙推定地の北側に位置する。金川の形成した扇状地末端の平坦地にあるが、畑に造成されているため地形からは遺構の種類を特定することは困難である。瓦は調査地の西側の畑より表面採取されたもの多かったが、今回はその東の一段下がった畑（839番地）にトレンチを1本入れた。トレンチ東側は20cm程度で地山となるが、中央部に向かって黒色土が深くなり、この中から平安時代土師器・須恵器や布目瓦が集中して出土する。西側は礫が多く、投げ込まれたような状態であるが、更に西側の畑を調査しないと結論は出せない。出土遺物の土師器には墨書き土器が多く、完形遺物の外に胡桃子の種皮などもある。この遺構は溝であるが、幅の広い底の平らな溝で、自然に形成された溝と見なすことができる。この遺跡が寺院址なのか官衙遺跡なのか明確ではないので、今後の継続した調査が必要である。

③ 心経寺横手遺跡（しんぎょうじよこて）

滝戸山の支尾根に囲まれた緩斜面にあり、南側に心経寺川、北はその支流によって区切られた舌状の台地上に立地する。表面採集で布目瓦が発見され、その畠の一部を調査することになった。東西に2本のトレンチを設定し調査を行ったが、土師質土器が若干出土したのみで、遺構・布目瓦は検出できなかった。近くには南北朝期の暦応3年（1340）、足利尊氏によって各国に建てられた甲斐の安国寺がある。



① 大善寺



② 半行寺遺跡



③ 心経寺横手遺跡



1 大善寺全景



4 半行寺遺跡調査風景



7 心経寺横手遺跡風景



2 正覚院跡調査風景（大善寺）



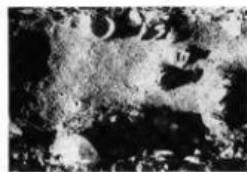
5 遺物出土状態（平行寺遺跡）



8 トレンチ調査（心経寺横手遺跡）



3 伝五重塔跡付近石段（大善寺）



6 同上（平行寺遺跡）



9 調査区全景（心経寺横手遺跡）

23. 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

23-1. 県営高根南団地試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町字下黒沢2301外
調査期間 1993年4月14日～4月16日
調査面積 280m² (8,700m²)
担当者 今福利恵、沢登正仁

県営団地建設予定地の全域に幅約1m、長さ10mから20mの試掘坑を合計22箇所設置した。山林だったため主に人力によって遺構・遺物の有無を確認した。その結果12箇所の試掘坑より縄文土器片等が出土し、2箇所から遺構が検出できた。遺構・遺物の密度は、比較的薄いものであったが、全体的に尾根上となる部分を中心にそれらが見られることから、遺跡が存在するものと考えられる。主に出土した遺物は、縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の土器片と黒曜石であった。遺跡名は日影田遺跡とした。



県営高根南団地試掘調査 位置図

23-2. 県道芦崎・櫛形・豊富線

（芦崎旭バイパス）試掘調査

所在地 芦崎市神山町字北宮地511外
調査期間 1993年10月18日～22日
調査面積 302m² (5,800m²)
担当者 今福利恵、沢登正仁

試掘を行った場所は、富士川右岸の扇状地に形成された、河岸段丘上にある。この扇状地は甘利山から流れる小河川によって作られている。富士川に向かって緩やかに傾斜していくこの斜面の中央部、標高410m前後の辺りを横断するように合計21ヶ所試掘坑を入れた。試掘は重機による表土剥ぎを行ってから人力によって掘り下げた。結果は以下のとおりである。北宮地の長さ50m程の区間からは中世のものと思われる土器片が出土したが、磨滅が激しく遺物包含層は二次堆積層と考えられる。しかし字武田の長さ300m程の区間からは、縄文時代後期（堀之内式期）の配石遺構や石皿・黒曜石等の遺物、平安時代の竪穴住居址や土器片等の遺物が検出できた。この約300mの区間に遺跡が存在するものと考えられる。



芦崎旭バイパス試掘調査 位置図

23-3. 県道市之藏山梨線

(御幸バイパス) 試掘調査

所在地 東八代郡一宮町北都塚地区
調査期間 1993年11月15日～11月16日
調査面積 183m² (1,835m²)
担当者 山本茂樹、野代幸和

用地買収が完了している道路用地内に沿って、1.5m×74m、1.5m×20m、1.5m×28mのトレンチを3箇所設定した。重機による掘削を行った後、人力で精査し、土層断面観察と遺構・遺物の確認を行った。この結果、耕作土下には炭化物を含む明灰褐色砂質層が存在し、極少量の土器片を含んでいた。その下には黒茶褐色砂質層が薄く堆積しており、若干の磨滅した弥生土器と考えられるものがやや集中して出土した。この黒茶褐色砂質層については、土層断面観察からも畦畔の可能性が示唆されるが、天地返し等による擾乱で状態が悪く、部分的にしか痕跡らしいものが認められなかった。出土した遺物の大部分は、周辺遺跡からの流入による二次的な堆積によつてもたらされたものと考えられる。なお本調査区周辺には都塚古墳や伊勢田遺跡、今泉遺跡など時期的に関連性の認められる遺跡が存在しており、今後も注意深く調査を行っていく必要がある。

23-4. 県営一宮団地試掘調査

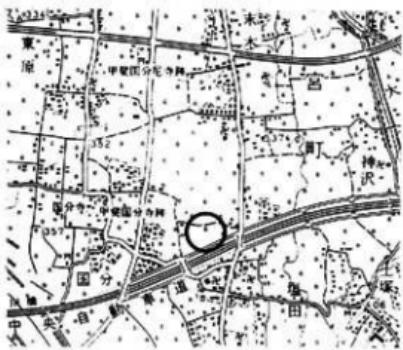
所在地 東八代郡一宮町塙田字北中原
調査期間 1993年10月19日～10月22日
調査面積 1,040m² (6,000m²)
担当者 山本茂樹、野代幸和

用地買収が完了している建設予定用地内に、幅2m×8～48mのトレンチを18箇所設定し、重機によって耕作土を掘削した後、これより下層を人力によって精査し、遺構・遺物の有無を確認した。なお、住居址と考えられる遺構が発見できた箇所については部分的に拡張し遺構密度の把握にあたった。大部分のトレンチからは遺構・遺物共に発見できた。確認できた遺構の内訳は、住居址54軒、焼土址3基、溝8条、土坑17基で大部分のものは平安時代に位置づけられるものであろう。遺物については、縄文時代の土器、石器。平安時代（11～12世紀）の土器多数、布目瓦、古銭（北宋銭）などが出土した。

今回試掘を行った場所は、金川扇状地の東縁に位置しており、周辺ではかつて湧水が認められた。



御幸バイパス試掘調査 位置図



県営一宮団地試掘調査 位置図

付近には国分寺・国分尼寺跡と笠木地蔵遺跡、北堀遺跡が存在し、その中心部に本調査区が位置している。遺跡そのものは確認遺構の分布状況から、さらに北側へ広がるものと想定され、大規模な集落址が存在することが明らかとなった。遺跡名は北中原遺跡である。

23-5. 狐原遺跡試掘調査

所在地 東八代郡一宮町竹河原

調査期間 1994年2月16日～2月24日

調査面積 320m²（約11,000m²）

担当者 森原明廣、宮里 学

県林務部による「水と森のプロムナード」の建設に先立ち、県立園芸高校の重機教習場が移転造成されることとなった。この移転予定地が狐原遺跡として周知されていたことから、その時期及び範囲確定を目的とした試掘調査を行った。移転予定地全体を対象に、1m×8mのトレチを任意に43ヶ所設定し、人力で地表下約80cm程度まで掘り下げ遺構・遺物の確認を行った。その結果、地表下約20cmに堆積する黒色土層（平均20～30cm堆積）が、9世紀～10世紀代を主体とした遺物包含層であることが判明し、さらに下層の黄色砂層まで掘り込まれる堅穴住居址2～3軒や土坑のプランが確認された。

また、遺跡の範囲としては地形的に若干低い北部から西部にかけては黒色土層（遺物包含層）の遺存が悪く、表土層直下に砂礫層が堆積していることもあり遺構・遺物の分布が極めて希薄である。このような状況から、金川と旧流路により形成された中洲状の地形の上に展開していることが予測でき、本調査を行う必要がある。

ただし、範囲の一部は砂礫層堆積が認められることから、河川移動にともない消失している可能性もある（図のアミ部分）。



狐原遺跡 位置図



発掘作業風景



試掘坑配置図

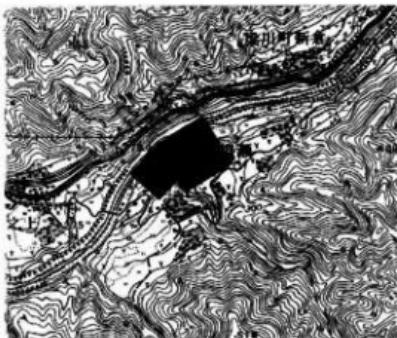
23-6. 桂川流域下水道試掘調査

所在地 大月市梁川町塩瀬外
調査期間 1994年1月17日～1月24日
調査面積 150 m² (80,000 m²)
担当者 吉岡弘樹、高橋みゆき

試掘調査の承諾が得られた部分に合計21箇所のトレンチを設定したが、重機が進入可能なトレンチは少なく、内16箇所については手掘りによって開口することとなった。

塩瀬地区周辺では、土坑1基を確認すると共に、縄文時代中期の土器片が多量に検出された。塩瀬地区より沢を挟み東側に位置する中野地区下方部分においては、桂川によって形成された河岸段丘の上段部より、平安時代の杯や近世の陶磁器類も少量ながら出土している。この他、地籍図に掲載されていない近世墓も数基確認された。

今回は、8 haと広大な部分にわずか21箇所のトレンチを設けた簡単な調査であったため試掘調査の予備的な要素が強い調査であった。



桂川流域下水道試掘調査 位置図

23-7. 国道139号線試掘調査

所在地 富士吉田市下吉田～明見地内
調査期間 1994年2月28日～3月2日
調査面積 126 m² (24,000 m²)
担当者 長沢宏昌、大谷満水

用地買収が完了している長さ960mの道路用地内に2×3mの試掘坑を10～30m間隔で21箇所設定した。重機による掘削後、トレンチ内を精査し、土層断面観察や遺構、遺物の存在確認を行った。

調査の結果、北半分は表土下約3mまで掘り下げたが猿橋溶岩流の溶岩が厚く堆積しており、遺構・遺物は全く発見されなかった。また、南半分についてはローム層や縄文時代早期～後期に降下したとされているスコリア層が数層確認されたが遺構・遺物は検出されなかった。



国道139号線試掘調査 位置図

23-8. 国道141号線（箕輪バイパス）試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町箕輪新町地内
調査期間 1994年3月7日～10日
調査面積 144m² (17,000m²)
担当者 新津 健、小林健二

建設予定地は八ヶ岳南麓を南北に走る標高720～770mまでの間にあり、尾根および谷を含む地域である。予定路線850m×20m内に24箇所の試掘坑を設けるとともに、表面採集、地形観察等をおこない、遺跡の所在確認を行つ

た。試掘は重機と人力とを併用した。その結果地形観察および聞き取りにより、江戸期のものとみられる水路跡が確認できた。地元で「古堀」と呼ばれる遺構で、台地上に窪地が1km程の長さに続いているものである。この箇所の試掘では窪地から2.5mで底面にいたった。台地上から斜面にかけては、10cmから30cmでローム層になり、遺物包含層や遺構は全く確認できなかつた。予定路線の東約100mには中世の板碑を伴つた廃寺「大藏寺」があり、これにかかわる遺構の存在も予測したが、路線内には及んでいないものと思われる。



国道141号線試掘調査 位置図

23-9. 北口県営駐車場試掘調査

所在地 甲府市北口2丁目
事業名 県営駐車場建設
調査期間 1994年2月2日～3日
調査面積 260m² (3,000m²)
担当者 八巻與志夫

県営駐車場整備事業の予定地は、甲府城の山の手御門付近にあたるため、工事に先立つて遺構の確認調査を実施した。調査は重機により15m間隔に幅2mの南北に長いトレンチ4本を入れた。その結果、表土面より30～40

cm下にある暗褐色粘質土層中より16～17世紀に位置付けられる土師質土器が数点出土した。今回の工事は、簡易舗装を行う程度のものであるが、平成7年度には本格的な整備事業が行われるので、本調査の必要があると判断される。



北口県営駐車場試掘調査 位置図

23-10. 北巨摩合同庁舎試掘調査

所在地 蕨崎市本町四丁目
事業名 北巨摩合同庁舎建設
調査期間 1993年10月13日
調査面積 100m²
担当者 米田明訓

山梨県が蕨崎市に建設を予定している北巨摩合同庁舎について、その予定地の試掘調査を行った。場所は富士川と塩川に挟まれた地域で蕨崎市の市街地の最南端にあたる。

予定地に幅2m、長さ25mのトレンチを2

本設定し、重機を使用して土砂を掘り下げ、人力により土層断面を精査して遺跡の有無を確認した。

調査の結果、人口遺物は全く検出できなかった。遺構が存在したと思われる痕跡さえも確認できなかった。当地は富士川と塩川に挟まれ、大規模な氾濫が頻繁に起こっていたものと考えられる。

23-11. 県立看護短期大学試掘調査

所在地 甲府市池田一丁目-6
事業名 県立看護短期大学建設事業
調査期間 1993年4月15・19・27日
調査面積 200m²(7,000m²)
担当者 森原明廣、宮里 学

甲府市池田地内の県立看護短期大学建設用地において、埋蔵文化財包蔵の有無を確認する試掘調査を行った。その結果、予定地の一部(約1,000m²)については、地表下2mまでの間に3ないし4面の水田址を確認した。水田址の時期は近世に主体を置くものと考えられ、本調査を行う必要があると判断された。なお、遺跡名については字名から「東河原遺跡」と付されることとなる。



北巨摩合同庁舎試掘調査 位置図



県立看護短期大学試掘調査 位置図



試掘調査風景

23-12. 音羽県職員宿舎試掘調査

所在地 甲府市音羽町296-1外
調査期間 1993年10月13日
調査面積 50m²（約2,700m²）
担当者 新津 健

調査対象地は甲府盆地北部、荒川左岸の標高約290mの地点に位置する。当該地は1992年度に調査の行われた音羽遺跡の南に隣接する一帯である。既設の建物4棟の間の調査可能な箇所を選び、重機により排土を行い精査した。トレンチは2×4mを基本に6箇所設定し、北から1号～6号とした。調査の結果、4号～6号までの3箇所のトレンチからは出土遺物はなく、湿地の様相であったことから、ここまで遺跡は拡がらないことが確認できた。1号～3号トレンチでは比較的安定した層位が認められるとともに、1号からは弥生土器が少量ながら出土し、2号では黒色土の落ち込みが検出された。遺物包含層および構造検出面までの深さは現地表から60～90cmである。以上から建替予定地の北側半分程度は、音羽遺跡の範囲内に含まれるものと見なされる。



音羽県職員宿舎試掘調査 位置図

23-13. 北原古墳群周辺遺跡調査 (大塚古墳)

所在地 西八代郡三珠町大塚4953外
事業名 学術調査
北原古墳群周辺遺跡調査
調査期間 1994年3月15日～3月25日
調査面積 150m²
担当者 保坂和博、松土一志

本調査は空中写真撮影による墳丘測量とともに古墳の範囲確認を目的として、3ヶ所にトレンチを設定した。各トレンチからは周溝が検出され、黒色の覆土内からは多量の埴輪が出土し（墳丘測量図参照）。第2号トレンチからは、L字状に配された石列が深さ40cmの掘り込みに沿って検出されたが調査区外へ延びており、遺構の性格については不明である。

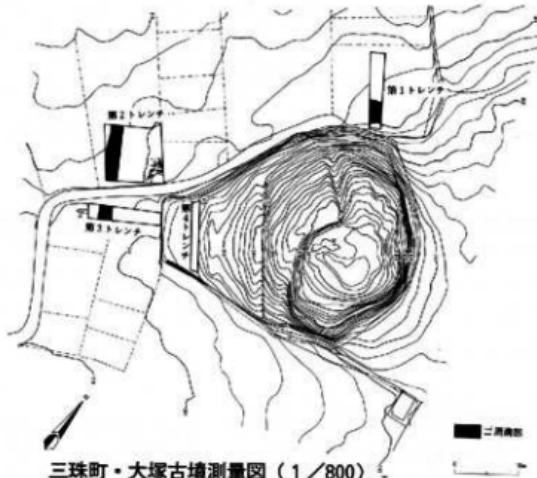
なお、大塚古墳の前方部は現在畠地となっており、耕作者により昨年の暮れ、青銅製の鈴付き腕飾り（鈴劍）が1点、太刀が約5本発見されていたことが今回の調査中確認され、新たに前方部の耕作により掘削された部分の精査を行い（仮第4トレンチ）、土層の観察を行った結果、前方部に石室が存在し



大塚古墳 位置図

た可能性が考えられる。また、鋤削により掘りおこされた土の中から碧玉製の管玉5点、挂甲の小札と考えられる鉄片および太刀片、鐵鎌片などが確認された。

以上の調査結果より、古墳の規模は周溝の検出地点および周辺の地形的特徴より全長約70mにおよぶと思われる。周溝の形態は、今回の調査では後円部北側および前方部正面側より確認されているが、くびれ部が調査できなかったため、墳丘に添う形（鍵形）か、あるいは馬蹄形になるとを考えられる。遺物は埴輪片が周溝部及び掘り込み部の覆土内より多量に検出され、いずれも円筒埴輪であり、川西編年IV期（5第3四半期後半）にあたる。墳丘部より出土した挂甲などは5世紀末葉の年代が考えられる。



第1トレンチ周溝部検出状況 (南から)



第2トレンチ周溝部及び石列検出状況 (北西から)

III 県内の概況

発掘調査 グラフに示したように、今年度は県内で107件の調査が行なわれている。この内開発関係事業によって行なわれた調査が96件、学術調査はわずかに11件である。発掘調査件数は十数年間増加の一途をたどってきたが、1990年度に110件に達し、本年度までの4年間は100件から110件の間を上下している。しかし調査面積はこの4年間にも増加していて、1件の調査面積が大規模化している。調査の方法もその知識や技術が向上するにしたがって、精密多岐になっていて、出土した動植物遺体の同定をはじめ、土器の胎土分析などが行なわれている。また出土木製品や鉄器などの保存処理も行なわれている。

発掘調査を原因別に見ると道路建設・改良等29件、住宅建設12件、宅地造成6件、工場建設1件、他の建物18件、圃場整備12件、公園造成4件、鉄道建設3件、土採取1件、他の開発10件の合計96件である。学術調査では県教育委員会が行なった古代官衙・寺院遺跡詳細分布調査や山梨学院大学考古学研究会が行なった縄文時代クリスタルロードを解明する発掘などがある。107件を地域別に見ると甲府市内10件、都留市内5件、山梨市内3件、大月市内3件、韮崎市内2件、東山梨郡内6件、東八代郡内31件、西八代郡内3件、南巨摩郡内2件、中巨摩郡内17件、北巨摩郡内22件、北都留郡内1件で、昨年に引き続いで東八代郡と北巨摩郡が突出して多い。市町村内で5件以上あるのは、甲府市内10件、山梨市内5件、都留市内5件、御坂町内6件、一宮町内9件、中道町内5件、甲西町内5件、明野村内7件、大泉村内7件である。これらの地域に集中する要因としては遺跡の密度と開発事業数の相乗効果によるものであろう。

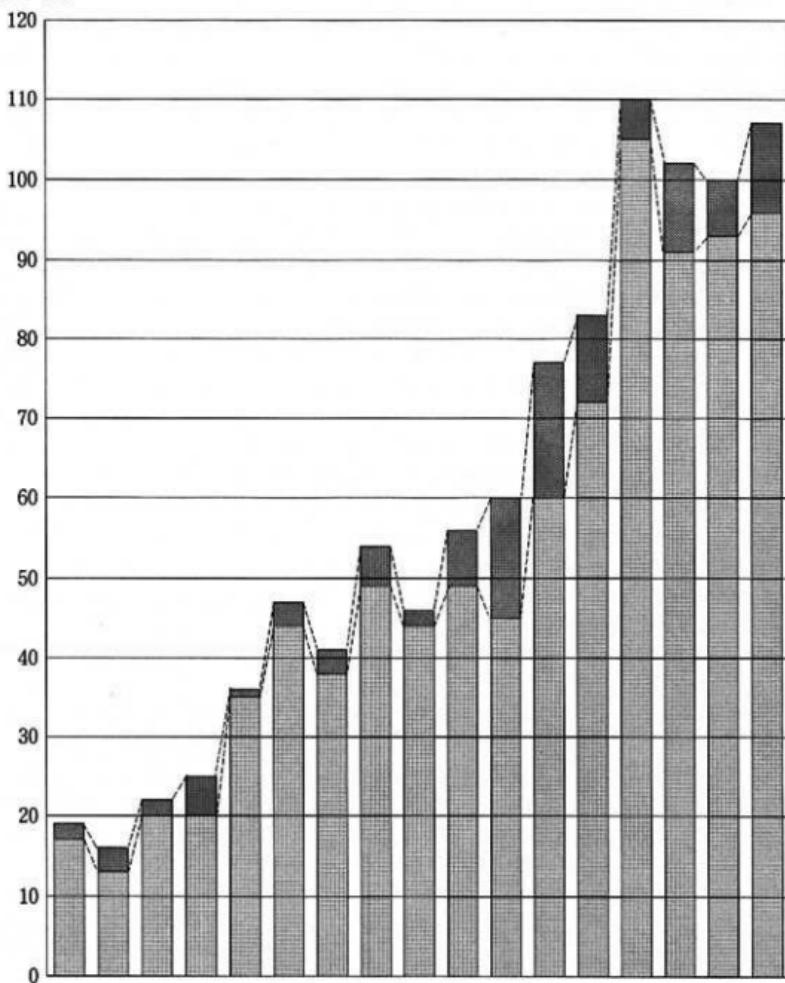
調査の整理・報告書刊行 調査した遺跡の記録類や遺物を整理して、報告書を刊行する室内作業は主として冬期に行なっているが、近年は調査量が増加しているため整理が追いつかず、報告書刊行ができない遺跡が山積みされるようになっている。これは県内の一般的傾向で、市町村で発掘件数や面積が多いところでは数件・数十件の未報告遺跡をかかえて苦慮しているところもあり、整理費や報告書印刷代の予算措置を翌年度以降に運らせるようになっているものもみられる。この原因是発掘さえすれば開発事業ができるという発掘原因者側の安易な考えが大きく影響していると考えられる。

遺跡の保存整備 一方、遺跡を保存整備するための発掘調査も近年活発化している。本年も昨年に引き続いて、県教育委員会で甲府城・甲斐風土記の丘、八代町教育委員会で岡の銚子塚古墳・孟塚古墳や勝沼町教育委員会で勝沼氏館跡を調査しており、整備も着々と進んでいる。

調査体制 県内における自治体の埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）についてみると、県関係は学術文化課2名、埋蔵文化財センター34名、考古博物館2名で市町村では甲府市4名、御坂町3名、大月市・富士吉田市・一宮町・八代町・須玉町に各2名、都留市・塩山市・韮崎市・山梨市・春日居町・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町（境川村と共同設置）・豊富村・三珠町・増穂町・柳形町・甲西町・敷島町・竜王町・双葉町・小淵沢町・大泉村・明野村・高根町・武川村・白州町・上野原町に各1名が配置され、合計1県32市町村に79名が配置されている。この中には郷土館等に常駐していたり、非常勤職員等も10名ほど（1994.3.31現在、学術文化課調べ）含まれるから実質的な可動力はこれより落ちることになる。この他にも発掘調査を担当している専門家は帝京大学山梨文化財研究所や山梨学院大学にも數名配置されている。また整理作業や遺物収蔵施設が整備されている自治体は少なく、わずかに八代町などで、郷土資料収蔵施設建設の動きがみられる程度である。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

(単位: 件)



	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993
学術調査	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11
緊急調査	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96
合計	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107

1993年度発掘調査一覧表

No. 1

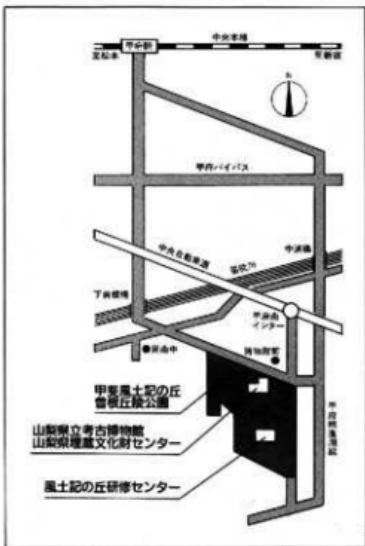
地 点 の 名 称	所 在 地	調 査 体 者	調 査 の 目 的	調 査 期 間	通 し の 代	面 積 (a)
1 斎岳古跡	中巨摩郡鳩島町大字名の、963	斎岳市教育委員会	斎岳市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	2,800.00
2 勝沼町上所木津跡	東山梨県勝沼町上所木津	勝沼町教育委員会	勝沼町教育委員会	1993年07月	令和、近世、古代	775.51
3 東御田跡	東八代郡第一宮町大字大字2-2 ほむか	東宮町教育委員会	東宮町教育委員会	1993年07月	令和、平安	1,100.00
4 東倉日遺跡	東八代郡中通町下所山字米倉山091-1 ほむか	山梨県教育委員会	その他の古跡(近世)、その他の古跡(近世)（鳴虫山ヌエタワツ）	1993年07月	令和、古墳、平安、古墳、近世	7,000.00
5 向原古跡	中巨摩郡明野町西原字向原077-1 778ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	令和、中世、古墳	7,000.00
6 新治下遺跡	中巨摩郡若葉町十日市場字新治下1716ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	古墳、奈良、平安	6,600.00
7 黒室宝塚跡	甲府市丸の内-6 地内	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	近世	4,000.00
8 丹波根遺跡	東八代郡吉田町守山字守山166ほむか	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	2,000.00
9 上の三澤跡	東八代郡上野原町守山字上ノノ原090-1 ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	令和、古墳、平安	1,000.00
10 朴原八幡跡	中巨摩郡鳴無町今宿地055-2-255ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	古墳、平安	7,900.00
11 左の川源流7遺跡	北巨摩郡高根町今宿地055-2-255ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	令和、中世	3,000.00
12 大浦田保跡	中巨摩郡西山町大字大浦田字保184-1 ほむか	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	中世、山川	9,300.00
13 田出遺跡	北巨摩郡平野町守山字田出58-1 ほむか	上野原市教育委員会	上野原市教育委員会	1993年07月	令和、古墳、奈良、平安、中世	9,000.00
14 大沢保跡	東八代郡守山町人曾原5070ほむか	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
15 八日家磐尖印痕跡	東八代郡守山町人曾原5070ほむか	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	7,687.00
16 中条古跡	越後市大通7-2 古墳	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	古墳	7,000.00
17 鶴久保跡	新潟市小堀山山上、川底字久保、川底字守久保	山梨県教育委員会	山梨県教育委員会	1993年07月	古墳	5,500.00
18 北巨摩郡守山町守山字守山1458-94号	守山市教育委員会	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	5,500.00
19 法藏寺跡	守野市守野1-20-22 高坂町境内	守野市教育委員会	その他の遺跡(法藏寺跡)	1993年07月	令和、古墳、奈良、平安、中世、近世	9,000.00
20 北前船跡	東八代郡第一吉野町守山字守山1-1, 3	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳、奈良、平安	8,000.00
21 丸ノ丘遺跡	守野市守舟172-1, 173號	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	7,000.00
22 守子古跡	守野市守野山字守舟235-1 ほむか	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
23 佐原寺守跡	守野市守野山字守舟235-1 ほむか	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
24 大穴守跡	守野市守野山字守舟235-1 ほむか	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
25 甲ノ原遺跡	北巨摩郡大泉町西片出字大泉648号	大泉町教育委員会	大泉町教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
26 天神跡C区	北巨摩郡守山町守山字天神487-1	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
27 白石寺小学校跡	北巨摩郡守山町守山字白石寺186號	守山市教育委員会	守山市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
28 金生遺跡	北巨摩郡大泉町守谷59-1 ほむか	大泉町教育委員会	大泉町教育委員会	1993年07月	令和、古墳	3,000.00
29 佐原寺守跡	北巨摩郡守野山字守舟235-1 ほむか	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	3,000.00
30 村之内遺跡	北巨摩郡守野町上字守野1458-94号	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	20,000.00
31 村之内遺跡	北巨摩郡守野町上字守野1458-94号	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
32 高台・中谷遺跡	北巨摩郡守野町上字守野1458-94号	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	4,000.00
33 田代高跡	北巨摩郡守野町北代195號	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	11,000.00
34 丸山代高跡	守野市守野町田代155號	守野市教育委員会	守野市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	8,000.00
35 立石遺跡	新潟市守野町守野10002-1 ほむか	新潟市教育委員会	新潟市教育委員会	1993年07月	令和、古墳、奈良、平安	1,500.00
36 二段田遺跡	新潟市守野町守野10001-1 ほむか	新潟市教育委員会	新潟市教育委員会	1993年07月	令和、古墳	3,000.00

1993年度発掘調査一覧表 No.2

地番	通路の名称	所在地	発着点	発着点休憩所	着手日	終了日	通路の時代	面積(㎡)
計	向原通路	北巨摩郡川村麻生字御前町76号	通路	嵐山教育委員会	1993/6/20	1993/6/20	昭文	600,000
38	中牧通路	東山教育委員会所轄古市70-1	その他の施設(施設用木外構)	牧山教育委員会	1993/10/2	1993/10/3	中世、近世	44,000
39	日影田通路	北巨摩郡川村麻生字御前町70-1	住宅	山梨学院大学	1994/6/21	1994/6/21	昭文	5,000,000
40	二子塚通路	東八代町(代町)60-1	その他の施設(施設用木外構)	八代町教育委員会	1993/7/7	1993/7/7	昭文、古墳、平安、中世、近世	5,000,000
41	大門通路	西八代町中通町下向14053-1	通路	地元教育委員会	1993/8/24	1993/8/27	歩行、古墳	300,000
42	天神山古道	尾八代町中通町下向14053	尾八代町	山梨学院大学	1993/8/20	1993/8/20	古墳	101,000
43	甲斐国分寺の通路	尾八代町 宮町原22	その他の施設(G.S.駐車場)	一宮町教育委員会	1993/7/19	1993/1/10	会館、平安	990,000
44	料亭通路	甲府市吉平町下盛平字御前769	山梨学院大学古生物学研究会	学術研究	1993/8/25	1993/9/11	昭文	40,000
45	谷戸通路	甲府市吉平町下盛平字御前7	山梨学院大学古生物学研究会	学術研究	1993/8/25	1993/9/11	昭文	10,000
46	谷戸2丁目通路	北巨摩郡川村谷合101	六代村教育委員会	體育施設	1993/9/1	1994/3/31	中世	5,000,000
47	川ノ保通路	北巨摩郡川村谷合101	六代村教育委員会	体宅	1993/8/20	1993/8/21	昭文	100,000
48	甲ノ保通路	北巨摩郡川村谷合101	六代村教育委員会	体宅	1993/8/20	1993/8/31	昭文	100,000
49	古里敷、古谷戸通路	中巨摩郡御影町下野原字御影1番	その他の施設(施設用木外構)	御影町教育委員会	1993/8/20	1993/9/30	昭文	3,000,000
50	大谷沢八幡通	尾八代町八幡町米原1944番	通路	八代町教育委員会	1993/9/11	1993/9/20	昭文、古墳	1,100,00
51	桂院通路	桂院町桂院36番	桂院町教育委員会	その他の施設(往來跡跡)	1993/9/26	1993/9/30	平安	1,120,00
52	ふすみ通	中巨摩郡御影町河西町内	御影町教育委員会	区画整理	1993/9/20	1993/12/14	近世	361,181,000
53	阿納氏通路	嵐山御影通町下野原字外立122154	御影町教育委員会	体宅	1993/9/20	1993/1/20	昭文	675,000
54	一之宮通路	尾八代町御影町二ノ宮1085-7、1087-4	御影町教育委員会	その他の施設(公用会社)	1993/9/20	1993/9/24	古墳、奈良、平安	692,241,000
55	御影通路	尾八代町御影町二ノ宮1085-7、1087-4	御影町教育委員会	体宅	1993/9/20	1993/9/24	古墳、奈良、平安	460,000
56	金の通路	中巨摩郡御影町六下条金ノ谷163番	御影町教育委員会	その他の施設(施設通路)	1993/10/10	1994/1/10	歩行、古墳	650,450,00
57	高尾山山林路	尾八代町御影町高尾山40番、50番	御影町教育委員会	その他の施設(施設通路)	1993/10/10	1993/11/30	昭文、奈良、吉備	300,000
58	東河原通路	甲府市吉平町下野原字御影165、761-767	山梨学院大学考古学研究会	学術研究	1993/6/27	1993/6/27	中世	56,000
59	御影通路	尾八代町右町町下野原133-44、97	山梨学院大学考古学研究会	体宅	1993/10/10	1993/11/30	昭文、奈良、平安	68,000
60	松木原通路	尾八代町右町町下野原133-44、97	一宮町教育委員会	通路	1993/10/10	1993/11/26	古墳、奈良、平安	18,000,00
61	金山通路	尾八代町御影2275-1	山梨学院大学考古学研究会	学術研究	1993/10/12	1993/10/31	昭文、奈良、平安、中世、近世	1,640,00
62	尾根通路	尾根町古川原881	尾根町教育委員会	通路	1993/9/14	1993/10/15	平安、中世	200,00
63	木幡通路	尾八代町御影川村大学附属田子の浦1249-1	木幡町教育委員会	体宅	1993/11/08	1994/3/31	昭文、古墳、平安	2,250,00
64	萬葉小屋通	尾八代町御影川村入字萬葉小屋933-6、7	萬葉町教育委員会	通路	1993/11/08	1994/3/31	昭文、古墳、平安	370,000
65	鈴木原古墳、鈴木原	中巨摩郡御影町下野原字御影1035-1	御影町教育委員会	鈴木原文化人会議	1993/11/08	1993/12/15	古墳、奈良、平安	1,300,00
66	江曾原通路(琵琶池)	山梨学院大学上見川(足利川)河床	山梨学院大学上見川(足利川)河床	学術研究	1993/11/13	1993/11/14	その他	1,00
67	北山原通路	尾八代町御影町北山原160番	山梨学院大学教育委員会	通路	1993/11/17	1993/12/24	昭文、平安	385,00
68	高橋原通路	北巨摩郡御野村上野原字御野原1556-1	明野町教育委員会	體育施設	1993/11/01	1994/6/30	昭文	1,175,00
69	甲ノ原通路	北巨摩郡御野村上野原字御野原1557-1	大和村教育委員会	體育施設	1993/11/05	1994/3/31	昭文	3,000,00
70	田村通路	尾八代町御影町石7-1	一宮町教育委員会	その他の施設(往來跡)	1993/11/24	1993/12/30	歩行、会館、古墳	200,00
71	城子通路	中巨摩郡御影町御影字御影7-1	若狭町教育委員会	宅地造成	1993/1/21	1993/6/25	昭文、会館、平安、中世	3,285,00
72	扇原町通路	北巨摩郡御影町扇原大通29	白州町教育委員会	その他の施設(送光跡跡)	1993/12/13	1994/2/24	昭文、会館、平安、中世	20,00

1993年度発掘調査一覧表 №3

施 設 の 名 称	所 在 地	調 査 主 体 者	調 査 の 目 的	調査時期	終了時期	通 報 の 時 代	面積(㎡)
73 中日幹線等二町交差点付近	中日幹線等二町交差点付近	山陽市教育委員会	学術研究	1983/12/13	1983/12/22	中日、近世	320.00
74 半井寺跡	東山鬼頭山半井寺跡付近	山陽市教育委員会	学術研究	1983/12/20	1983/12/24	平安	20.00
75 大畠寺跡	東山鬼頭山大畠寺跡付近	山陽市教育委員会	学術研究	1983/12/13	1983/12/21	平安、中世、近世	400.00
76 佐根塚 通路、供養塔	西八代郡三田町佐根塚付近	市立考古研究所	通路	1983/12/16	1984/01/14	平安、古墳	1,600.00
77 大別山寺跡	山梨県小鹿谷大別山寺跡付近	山陽市教育委員会	住宅	1983/12/20	1984/01/20	内歴、平安	1,164.00
78 海の水神社	北日吉郡引野町海の水神社付近	市立考古研究所	海の水神社	1980/10/01	1980/07/25	精文、	3,500.00
79 二之宮水神社	鬼の水神社付近二之宮水神社付近	飯田市教育委員会	住宅	1983/12/22	1984/01/28	古墳、精良、平安	325.00
80 施所跡	大月市施所2丁目字下付近	大月市教育委員会	通路	1984/02/10	1984/03/31	周辺、	194.70.00
81 大月通路	大月市入見2月付近	大月市教育委員会	通路	1984/02/10	1984/03/31	精文、平安	104.67.00
82 保命寺跡	大月市保命寺1丁目付近	大月市教育委員会	通路	1984/02/10	1984/03/31	周辺、古墳	185.00.00
83 宮ノ前遺跡	山梨市内山根宮ノ前遺跡付近	山梨市教育委員会	住宅	1980/09/17	1980/09/17	精文、精良、平安	488.00
84 安田長持跡	山梨市小鹿谷三丁目付近	山梨市教育委員会	その他の施設(施設付)	1983/10/2	1985/01/28	山岳	79.00.00
85 心臓病手術室	八代市山形町心臓病手術室	山梨県教育委員会	学術研究	1980/01/10	1980/01/12	施風、平安	15.00
86 美豊寺跡	風上美豊寺跡付近丸山付近	市立考古研究所	公園施設	1984/02/19	1984/02/28	周辺、	60.66.00
87 口内通路	中日幹線付近河内内通路付近	市立考古研究所	通路、周辺	1984/01/26	1984/01/31	周辺、古墳	395.50
88 社口通路	北日吉郡高瀬村付近社口通路付近	高瀬町教育委員会	通路	1984/01/17	1984/03/31	周辺	190.00
89 宮ノ上通路	鬼八代郡山通路付近山字宮ノ上通路付近	山通路教育委員会	その他の施設(山通路)施設付	1984/02/01	1984/04/30	山通路、精良、平安、平成	193.95.00
90 諏訪神社	石川町諏訪神社付近	石川町教育委員会	柱形	1984/01/05	1984/01/14	柱形、	150.00
91 鶴田通路	東八代郡石和町鶴田通路付近	石和町教育委員会	公園施設	1984/01/17	1984/01/25	精良、平安	100.00
92 仁林通路	北日吉郡仁林通路付近	市立考古研究所	公園施設	1984/01/20	1984/01/26	周辺、	3,600.00
93 幸平、平林通路	北日吉郡幸平町幸平通路付近	市立考古研究所	その他の施設(幸平付近)	1984/01/15	1984/03/31	精文、	7,026.00
94 山下通路	中日幹線山下通路付近山下通路	中日幹線教育委員会	学校(山下通路)	1984/02/21	1984/03/31	外山、古墳	1,332.00
95 朝明通路	東八代郡朝明町朝明通路付近	一宮町教育委員会	山通路	1981/02/14	1984/03/03	外山、山通路、平安、山岳	50.00
96 通ノ通路	山梨市三ヶ所付近	山梨市教育委員会	住宅	1984/03/15	1984/03/31	中日	180.00
97 風原通路	東八代郡一宮町風原通路付近	山梨県教育委員会	学校	1984/02/16	1984/02/22	周辺、	1,200.00
98 道ヶ原通路	甲府市道ヶ原町道ヶ原通路付近	甲府市教育委員会	学校	1984/01/25	1984/04/30	古墳、奈良、平安	240.00
99 高間通路A 地点	甲府市高間通路付近	山梨市教育委員会	学校	1984/01/25	1984/04/30	古墳、精良、山岳	1,500.00
100 久保田通路	中村内保町付近久保田通路付近	甲府市教育委員会	学校	1984/01/25	1984/04/30	山岳、精良、平安	1,800.00
101 仁田通路	東八代郡一宮町仁田通路付近	市立考古研究所	その他の施設(仁田通路)	1984/02/24	1984/03/31	山岳、山嶺	300.00
102 伊勢佐木通	西八代郡三田町伊勢佐木通路付近	山梨県教育委員会	学術研究	1984/02/23	1984/03/10	古墳	100.00
103 大曾子通路	西八代郡大曾子通路付近	山梨県教育委員会	学術研究	1984/02/23	1984/03/10	古墳	100.00
104 美山古墳群 近接地	東八代郡美山古墳群付近	飯田市教育委員会	工場	1984/02/28	1984/03/08	古墳	230.15.00
105 小山塙	中日幹線付近久保田通路付近	中日幹線教育委員会	区画整理	1984/03/14	1984/04/05	山岳	72.00
106 三枝通路	中日幹線通路付近	飯田市教育委員会	その他の施設(仮設)	1984/03/31	1984/04/30	中日、近世	60.00
107 美利通路	鬼八代郡美利通路付近	八代町教育委員会	その他の施設(仮設)	1984/03/17	1984/03/31	精文、平安、山岳、近世	30.00



●路線バスのご利用

青川……(甲府駅)……右左口(中道橋経由) 博物館で下車

竜王……(甲府駅)……右左口(中道橋経由) 博物館で下車

●高速バスのご利用(2時間)

新宿駅西口……甲府南インターチェンジ下車・徒歩10分

年 報 10

印刷日 平成6年3月25日

発行日 平成6年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曾根923

TEL 0552-66-3881

印刷所 横浜南堂印刷所

甲府市丸の内1-10-1

TEL 0552-35-2528

